邀觸無底抄

特別
へ12
1077
53

京都帝國大學圖書之印

利
1077
523

1077
53

蜻蛉

廿五歳　大将　花鳥ゝは廿三年成よ

見れまゝの事ありこゝ

四月宇治姫君投身事

私云　秘記　事ホニ云浮舟君投身ノ翌

年ノ春ノ頃ヨリ秋ノ末ノ頃廿六

歳ノ事ニシテ　ホトヽハ浮舟ノ八三月

廿七八ノ事ト見テ　四月ノ事ホ

ヒハ　ヨリ　ヒ

宮御使来宇治姫君失給由帰参り
時方為宮御使行向宇治事
遣侍従君事
母君来問之細事
車載故姫君裳ヲ向山焼上之表葬送り
大将殿七ヶ日参籠於石山事
兵部ノ宮殿思宇治事心地悩給事
大将方来給り
晴蛉或ノ宮薨大将著服事
大将以宇治姫君事諾ヲ兵部ノ宮給り
五月大将献弔於兵部卿宮事
自宮之時ノ御ノ宇治ノ君ノ右近君給り
右近不来仍行彼君来事
猶苦裳来ヲ為侍従贈物事
大将殿彼宇治ノ君事
右近君物語兵部ノ宮通給姫君事
大将殿ノ律師示給彼ノ善法事之り
大将殿之文上書陸奥上り

使贈班犀帶大刀事

常陸守来母上所因姫君失行之由大驚思

四十九日仏事執行事

兵部卿宮銀壺納金送右近君事

二宮任式部卿行事

大将念人一品宮女房小宰相献文大将事

明石中宮事高六条院并紫上被引人講事

大将自馬道方見一品宮事

女房共散水事

大将念申一品宮事

大将謂女二宮不似一品宮事

大将来中宮見給事

大将帰一品宮御方給事

一品宮後中宮御方給事

一品宮女房大納言君与中宮御物語事

大将小宰相君事

白宮与宮治姫君事

自一品宮献御文於女二宮事

被垂給物語事

行河大將殿事

兵部卿宮入道侍從物語殿

侍從宰相侍從事

蜻蛉或宮姫君殿取中宮御方殿

兵部卿宮心懸殿

大將參中宮殿立參一品宮与弁君中將

君戲言事

中將君引筆大將戲殿事

大將引和琴事

蜻蛉或部卿宮姫君以西對為御方事

大將宰相君方殿事

年長女房出逢物言事

蜻蛉　夫己名歌并詞ニアリ

何

あきつとのあるものとはうれしをみまほしより
求もとめてきこえかけるよ

私は所々の歌よけくとこそいはをも
てなりあるべき名かなるべしわくれし
をしたちなをとしあわ

元

ものゝ名は初めの所にはそれ童共ニ
歳の名ものゝ秋まさしれ事あり

并

ものゝ名所よりまいるとかるすす蜻蛉

蛙蛉湯煽は蛙蛉なるもの
あるやうにてはなく蛙蛉なるもの
又は角なるやうなる物を
何もとしたる蛙蛉の一名同云
蛙蜓といふ角なるて一名蛙蛉と云也蜓は
ちいさきみをもつものをいふ湯気
秘
也名以寄并詞号之海舟其の翌日より
也月よりはじめて秋よりの蓮花の葉
之義
けるはなれ蛙蛉蛙蛉湯煽はなれ

第
ありてはなれは蛙蛉のごとき生をいふ
かけるはなれとあるは云日ごとにあるは湯煽之義
此物語乃巻名物語なるしさ物をあく
はなれるは第十宣蟬夕貝蝶其外不
可勝計第十ふるまりて美濃福よ
はなる物也

かしこまりはべりておきてせねをとりあげられ
ぬ
何
被
中之
死
浮舟
君の御ゆゑ我身をうしれ
ぬとて
ものはかなくそらまほしく
為をおけばなほ
事ハ人のきこえぬすま
まはしきをふせ
よとて人のおもせ
ぬ所にもてあがれば
行物語
なれば
自
しらく

かさ物ゝ名ゝ
松 浮舟のをとゝのひ江戸へ寄
業 浮舟をもとゝのゆる字法乃秘せ
物かたりの姫君ゝよめを望さそらん
河 右物語のとゝ世ふてくらゐ新義物
光 信右ゝ物語より姫君ゝ母乃ゝ信乃
ふあるもをろうりゝ
をいとゝ
寿 演松ゝ物語ゝいとゝ
演松物語と云し河海流一ゝ光源氏
物語をゝ引うまい公ゝ光はさうゝ
業 演松信右よあわとゝ
くゝくゝいひけを
業 ゝ物語ゝ引ゝ
ゝくゝもかゝゝ信右乃ゝ引之
京ゝ
母ゝ使ゝ
松 母ゝ

人をこせうと
はなせるすがりかはるあまの舟人をこ
せうと

いうまきこたへんこと秋のたちめこの
重人乃せうをこうこと
はつふねりひろふ乃ふねく
何とも排号にをよろねこと
元 ゆうこうあくとうりやりひろこと 立春通こ
かれ乃しまうこう

秋 古道一巻

月をおけの角ろうこは
四古 世中乃うきをひとに分をうきは
ゆうさ若してあさこ成るせん
なくしおれかをこをなのをうれハ
秋 世中乃こうり毎ふきをうみこ
第 えれくのうこと
おほりうなさにやうまのまきつや
第 世の文乃何

あまひき薄ふたつらをきてきしみをと
河奥入
思ひしけをいりて来てなしきまむお
哀れきまへ奏よ西よられ
秘
拙へまてし指路り人半いちくおれと
薫の中方へ之義
弁
薫のすへもし路り人之定路しまし
とゝまれ半盛へ行れさと推よとおく
先ゝし母乃方へ先む色まへきし
ちてみむら色まてまつきてん

秘
京の方へ渡らへなきや
まふは母方のへきまへかと
秘
浮舟の入水見へしや立し明日之夕暮
生こふ横川僧都ふあひし時の母なりし
より色の方へ見とゝもゝ何事て見へく
秘
母乃かくれ之事し
義
右をかみてあまくや
花
母の方へ乃たすよ後よ又おひくともと
おもいなむは世の夏よ心もとなくて

年数よりさきの事なれども
きこえ侍をゝ人の世にさめて
よはきを
花ふかきいなくゝ
見しり古近のなけきいとふ
あらしとはいとをしてゝ
伊勢物語 百九十四
躇躇 ためらひ 土佐国に何のゆゑ歟
てあり則躇躇 ためらひ 字ヲ考ス
幼稚なる子共
ともむ
いとくおかしかれ
見ハ浮舟物を
見えしとも
年をへてこの年
身をかけ
かくいふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宮ゐとい[illegible]

女房[illegible]

いけ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

浮舟の[illegible]

[illegible]

[illegible]

白[illegible]

くり[illegible]

白宮の[illegible]

[illegible]

[illegible]

白宮の[illegible]

いきてゐるものを
死
うゑ死にするといふ事は
くるしくてこらえて
しらハ死をとうせること
の外にさせるいきてゐる
なら命ハのれるものを
しらぬものをしの
時ハ死をうるは
不死よハ不審なりと思ふ
おほ屋のかくしかけ
ハ
何も自然ハ別に
時方いきてもしぬる
天地人生之行ち之自然ハ
かの大ハ殿いなる事
業ハ時ハ
ちなり　河　弁論
しぬる事なり
かこつを事なり

きりとしてはいと寒きりうあるてや

又白ゝ[illegible]の頃

いとおしう[illegible]

白乃切りうの[illegible]を時方うの[illegible]

かやをさ人いとしいさ[illegible]

白宮[illegible]の字治おくとうるれうを

うめを射てしいを白

面ハとこうしうを白

浮舟乃方をあ[illegible]あうるれ白ゆの

月字治流して侍都の浮舟を見付て

[illegible]年月日風一[illegible]

げをのさ海して

時方うゝ[illegible]なくては寒さ

こいうりうを白

おゝひやておうう[illegible]

幕選乃年せ

[illegible]

古近の頃とゝり後は時方乃年[illegible]さ

宰をいふ角

いまひとつ取さたせし

（秘）時方伝授をさして云

いとけなき時に成て受しことあるを

伝授の時方より取相

日ごろ物受しさたりいろさ段

うさ舟物之角宰せ

刻も東いと心くるしく

（元）白宮おりて物ものもえの話そひ

しく伝授りふあひ有て時方話ひ

宰上代宰をふんてうり

（秘）一日あひさてまうて物ものもひ（業）

去乃をかひあり人のいと伝授るて

者乃樂まはうをれも宰を世宮

代人のいむなみよ見とい代あり

受物ものもえし

（秘）時方ゝ受て代排宰せ

出れさかりをたて

河

うりせこはかをうてもあきあるまれ山きりさにそ

松ちのなけよてゆ祢

いにしへかひあるれはりさ海

秘

菅のうえ生京あ人きすゑ業

寺

いけ之

おふ神もあ空をハえるやうしてもも

人のいこしく物む人をはさい人もかゑ

ゑなる

河

宋王烏屈原作招魂詞云帝告巫陽曰有人在下我欲脩之魂魄離散汝巫之王逸注云章句帝謂天帝也巫陽神醫也餘生欲老海南村帝遣巫陽招我魂東坡

秘

あ物こあり

又ここ

りてこと

ゑ

事

見河花り

元

梵天帝釈ハ人間をつさこる天之帝天人

仞利天乃王之武物ゆ宇治大納言物語ゆ

浄蔵貴人百ら善相云乃せさるを形ゆ

ここる事れあるを知ものり又河あよハ宋忠

烏屈原ゆ招魂をけ生ゆすと

魂の河をけ生ゆすと

いかなるいつまことさせ給へる御ゆかりを
帝人の人の記きうを尋ぬる事
かさねて為きうを命じ
集 冬 心 きう
朕子經こゝろ ありとき 朕子ハ天皇長子乃
子乃名なり云し經説乃旨須也
なを云こゝ世なて六行乃ゆかり
人よまれし鬼よ海まし
秘
人もそこと鬼もあまし 業花 姓名
めなとはりまし人なれはきこみそ
こと業也

心てゆ事ことはふを
集
時方ゝ心
花
時方ゝ男屋やてきひおはあて
まうしとしてハ人先乃ものを
多ゝ多かけくきれを見えぬまし
まゝ為しいへ
秘
秘れ子人乃ゝくきこて活為ゝ
時方ゝ羽

時方の行儀ふかく不審なるよしを
ふゆへありのまゝにふれさせ
御身のうらふ
白氏文集のうちこの義
多くまもらは
いまの人まりてやさしき海よりおもひ
してはいかゝ
書くらんをいかゝ
古詩紀よりあへと白氏伝の事也

女房よりはひとしくはひとりは人のみをとゝのへ
楊貴妃帰唐帝思
李夫人去漢皇情 頌
嫉妬し身を損しかを失ふ異
朝にもゆゑ及ぶ
世の言葉のなりたる事はさとるべ
しと時方のいはゝ
事にいとあるまじなる事にて
侍従の胴

かくとゝもとうてまいりぬ

先ハ行程の第一さきいりぬハよれぬ

なりぬと代りはうまあるしと思ふ

をうらいはうまてと人やくいとりそ見

行程の時方よりは

あらかきまとまとひ行ん

人をかくるはたをまをふ今ハ

をうと人一同うなまをふ内

屋うまてはかしと知をを

かれとををうりに立に

菫より彼こゆりはををひとはす

をうをををうをを人をうしををを

行りんと

菫乃事と母をををあと白れ事とは

をうをを

こ乃清をとは人をれぬをよ

白れ事とは浮舟乃第に也ををは

しらをいぬと

仕事をあらためてやうやうあまくく
浮舟方をなぐさめ申さまとそれは
なくいはん
心のまゝひよりしくく
義 侍従う心ゆるひありといひおとをとや
私をうめれとなるものさはかまの事を
いひてあまくをいをを
ひえうう歌こゝ
秘 時方う色也

いはうとしたうにまいらん
時方う詞
いまはうかゝと
義 白乃はみはうもおいせんといはん
あれかゝ事か
侍従う詞
秘 浮舟あはるふあり〳〵れとと
義 なるき物を白きのうとゆひ事は

せんは浮舟の為よハ面目なくもれし世に
さうの事はあるまじきハいかゝ事ぞ浮舟
のうちあるかてハ白ぬりまさねは和面
しとゝ
さて山ゝとうちとう坊主角ちう
むかしきうれあるかうしまの後のす
をいとあむうもせ
私うちとは善通寺の和尚からも
なくてうせうを云ふてあるのもも
むかしきうれあるうちよりひきせとも
後のきさうえ物のまゝ見もいてとけ方ふ
はちとのさうにうやうにひうとゝ
ゆゝ
面れいうかうまれまて
ちうせ所ゝ豊日ゝ面
めれまえふうれゝ
眼前ゝ死ぬをとうはうの法れ式ゝ
されいうとゝたゝ面を云白乃事ゝ

おほしくまうかをまつりぬ母にまつりぬ衣
まうをとあそんとはおもうぬべし
なりやなひけらん
鬼はや一口にくひてけり　伊勢物語
伊勢物語の鬼はや一口にくひけりと云ハ
堀川のおとゝ国経の大納言なとの二条
后をとりかへしたてまつりしと
おもしろくいへるを伊勢物語に鬼ハ人をくらふ
といへるにてこの鬼とは何をも又江談に

小松帝時仁和三年八月武徳殿松原有
鬼食人則大姓也同廿六日帝崩清是其
徴なりとし是ハ鬼乃人をくふ例之
花鳥余情にも仁和三とし
こゝろはめしものゝとりとていふらん
説文曰狐妖獣也鬼所乗也ことし寛平年
中備中国に賀陽良藤狐にとりつかれしか
十三日余ありて下よりかへし事有り
もの物語のはやしきのかたらひに

幸
上は御ものゝ
おそろしと思ひさまゆるはなりよ
元
女二宮はれいのさまの御あれはやうの人
大将殿のもとへ
ものし給ひてうしろめたし
秘
女二宮の御あるりさまの人のみさりて
いさるひりうと
幸 義
けをれとをうもひいまいとしかし
義
下ものやうの人のありもあるさり
世ものまこのありて
宮法の墨はれ人をあれさるる
元
ものをうせて
ものあるぬ中
もとあるに
義
彩色のあるぬ人は
ふみ
あさかけのもれとうつ
ふあるものを

河
なきさわひ身をはなれてとまるさまに
うきなれるえんとをうしなひ者の
ゝよりもまさりて
秘おけさしひ方しこゝろみまし事
筆浮舟をよりて
筆硯のさはりはけしきに
のゝ下もてもまさしの事を只祝の名
川のうをを見ありけく
身をなげまとてをみもとてこの侍
なりとさうろく
さてうせはまをんを
秘世事をくりくしなりてとや
いはくみとしくいうちりかたはなはまを
筆やの白
見ひさう事をとてもはかをおりて
秘浮舟はかりをおりて
とれり筆
いとをさしれほとあるぬと

河 金さきはるの三川弁うり暗之
松 ちりかゝるもとや 弁
もとのわさらめさせ
義 四方山れうをもとんとや
いとをきえり
義 大道行長なりしかの角ゝ行きのまふ
いひしらしハみえに
きくもらしぬとひ
四乃弁せ

河 いさうとてとハトの解メとしひさとてらの
行とハ上言まて たちさ
古道ハいとうとうう
松 和之変改つきをみのかの義ある又ました
ト解にゆうゝ多方のあるこ
乃ちの行 上言
日調ようゝ
これ清とハさうの変の清ものて
弁 琴ハ童ちうゝ
河 琴豆陽殿 西宮殿 四納殿 墨代清物在 豆

元

陽殿恒例御物納藏人所綾綺殿紙四屏
風納仁壽殿藏人所雜色為預
御詠延喜五年正月廿二日石保忠令吹
笛笙曲調頗北聽因賜橘氏笙是故太政大
臣昭宣公弱冠時承和天皇為令学習所給也
寛平中以其名物而献之其後為亘陽殿
笙令尋四意以賜之
同延喜十七年四月廿二日此日返納亘陽
殿累代書法此殿自本納書法百九十七卷
往年勅出者覧又於作書所換更令換写
切記返納本所只雖大数本無細目觀其
題名或有誤謬仍新作目録一卷細記題
名裝束及其説謬加以置之欲後来者見
之頗有方別耳又加書法三卷定二百卷凡
厥子細具有目録即令右近少将伊衡藏
人桐壺帝之
清行等換納之

一ふの乃うや

秘 弁雅院の内殿乃所爲

伊せ乃くに乃

秘 一ふ爲ゑ　たゆ　たゆ　ゆ　ゆ　ゆ

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

みてゆひらさ

皇爲ゑ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　感　ゆ　ゆ

されて

御　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

皇宮殿乃伊勢乃ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

殿の奥を浄ゑ

伊　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　にして

伊　伝記云延喜十六年二月廿九日式王中務卿親王

太宰帥親王階下唱歌侍臣五六人入唱歌

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

秘 文音律ゑ

呂乃律ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　弁

[illegible]

何 青柳 俳 催ることは 長年三年序 柏亭二 青柳をと

いとにうてをもや寄りうさ[illegible]ハ柳

むらやや

松 はる柳水寄しをもろうねへ[illegible]

[illegible]ると青柳とうと糸にうて寄の花ハ寺

長 はる柳東京のるみりてうとり

[illegible]ん

[illegible]ハ年[illegible]て定れる法或ハ[illegible]ハ

寺 [illegible]

[illegible]ハ年[illegible]て[illegible]法構一法[illegible]

[illegible]一都はる柳ハ[illegible]

[illegible]ハ還迹[illegible]

[illegible]ハ[illegible]

[illegible]ハ可[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘

源氏綱

三月の初米には志しをくふあるりとらゝかなく志し嫌

花 白

うちくしはへるりせはいくらに花乃枝やさし流 法成寺一音

秘

かたくしかく人し此頃を月くりたく志しせ頌り

よりく

これしハ老やまなりをし

辛

時しハさしいりなりし源氏をとえ多くりし夢や

私老やまさりとハ源乃老ぬかさなりし何し

侍らんせよりしとや

梅の花をしさ方ぬ下せこさ

老ぬるふ又位さくかくしかしぬ雪方との是

あくすロおしらそ

源の名やし之

うき世よすみなそて

辛

玉りくし乃方ぬ定ならし

大権の宝も定くり御筆源乃由来をとや

柳るらしとゑひきさし御筆

玉なつの気みて實又なりし源と大納み卦き之

[illegible]

松 きさきとうかアてりトヨムゝ

はたあこ女 六東院へ[illegible]

こ乃院みて

六東院へ

[illegible]

弁 [illegible]

[illegible]

[illegible]

何 源氏院ゟ[illegible]

入上皇之女宮へ

松 入内の後をまつ[illegible]

[illegible]

松 藤大納言

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

枕

作者の名は自事とも云ふ説と源氏院号の
ゆゑなりとも云ふ説とあり後説は源氏の
辛　同云作者の名は書と連ふ説なり事と云ふ
河海にあり一説大略云
私云自事とは世をすてゝ出家せるなどをいふなるべし
しかり河海説なるべけん
さて人物は世をすてゝ出家せるなどは
枕　第子地の　四まいりてとかしと
世の人はいとしたみて

催馬楽の歌

乳　君家の曲水の
辛　玉藻の事
私源氏に乳母なる説あり是は大きみと
はいひながらとも
やうにきみやひとつに
あるべきなり
けいたいなるべし
けいたいなる人なるべし
世の人の第一あるべき事
人物は人物なるべし

紫乃うへハいとゞらうたくひさまるを
又かやうにおひさきしるきさ
女三乃宮を云也
なるべし
弄
女三宮ハ御つかれありけれ乃事ともを紫上しめす也
私紫上を源乃おもハくを思ひ給也
ひめ宮ハなにもしらずいさゝ
女三の御さま之一向に思ひとらずひとつ御心ざし之
このむすめ乃ゆかり

紫上をあまたきこえ給し事を源の思ひ出給也
されていふひあまりし
紫上ハをさなき時より生せたてゝおほしたて給也
其事ハいとらうけなく
光ハ一とせにいとけなきさかり也
よろめかしきけに
秘
嫉妬なとの事ハありまじき也
源の紫にされまさなき也心の中より嫉
妬なしけなりの紫上かけて思ひけるハ嫉妬也

[illegible]

幸

みくけ強き心はかきもつきて

こゝろあさましくひがごと

紫上の御

さまにくれものあるまじきや

紫の御中心

清らもなくいよいよたらしめさせ

紫上の御心幸

源の袴着幸

ほうぎとなりて入給ふ御心

かくてこゝろゆの幸

秘

源の氏中心紫上とをとり扱てみもえ

ふかくさく人もあるまじくせさせ

給ふ事もと中納言とはいえ光りかけて

夕霧はやはり内のおもうもの

きりつぼ人こゝろ得てこのその御幸もかりし

と藤月のうくさきれ人とこ之
須ぐかれて　須のさ海之
こよひハたかりと
松　源乃大将へ下給頒
ま　三十日也
あまたり給のとかくえ
源氏大将の御のとかくえおもしハうたをこそ
まみえしし也
又ちりここてかり乃院みこさこしかさん

前乃やれの跡之とて又さやに世二之なりなん
あらて八幸荏れ御前以たるんと須磨ち之
まつし須をかて
松　紫之也
みゆるの御気をりに
松　見よりも娘のさとし何れんとれ月なりしも
気つきなるも色かれしおもをうけさり
とえり御りいつこみと海るつさ
さふもひえりハとかりと前みあるといを

[illegible]

源の俊忠

[illegible]

河 文頭

源の[illegible]

[illegible]

松

[illegible]

[illegible]

松

[illegible]

河

[illegible]

[illegible]

源の忠

[illegible]

松

[illegible]

表
命ハなかくてほしきハ
くるしきかりし也
三ての名残ハ之る
き世のおひかな
ちかりし也

生
定めなきハ世の常なれバ生てハ益なしと面白き身也
我命ハ定なき事ハ云べし此哉ハ思ひ乃よし
世なる定めなき世の中をしれ得ね我か
てハあらしとや

秘 涙也

よみても
そのう
紫上の涙をとめよかしまたなし世之の中か
名之みかりしまさするや
いとあさくはかなかりし

紫の上の事也
ミしりてやあらんと
秘 紫上の紀之源氏物語その事也
何ハかりしかこれハて
花なき紫の上の事かもしとひとする也
くせのきくミてしとてあめなしぬ
世の間なてハ知らぬの事とも乃かなしぬハ
未来の源氏をしるて
とかのちし

秘

世の中の憂にいかなるすゝ出さんと

さこそつまるまゝ

巻の秋へ

をゝしつとうの世をうや

さまこゝろをさまぬ人への四

くらけり　舞　本をゝ秋へ

をゝをゝをゝて

相運をうさ海の四

をゝれてゝを

巻の行ゝをゝれて八幡出行ゝを

をゝをゝて

をゝをゝうゝ我をゝいみを四

霞しみをゝぬ

秘

巻よをゝあをゝ海をゝをゝを四

をゝ人の中をゝをゝすゝひをゝ

秘

巻の四

をゝをゝうゝ月の中と舞行四

をゝをゝれあをゝ

松

雲上の明年

いまのうらうすいまてらこそ
ぬるとは花黄昏をまつ
早下しての行つるや
この春は　如こそ
あとをうつす心のうせぬるや
世の我身の色とのうつりゆく女三宮
うのまくいとうまくせて
色てあるさ海の人やとりるむ

きうつ人てのかの年と年をかの図
ぬきうきさ人世をりけるをうをみて
何年を人うに花にうる年重ハいうをや
あうり射ていハ花とうりくこ年と花を
ひてをり
年みうに冬年
ううけうて花ゑる
如之人年雀流ちゆ山ましあるくさなし
けるきうちに花をうをうをみ

吉昇
中務中将ノ君
弁 りとハ源氏の御かたにおほしたる源ノ宰相
けるを紫上乃かたにあり
もとハ召人なりつ
秘 此中務中将宮上はしめハ源氏の御方なりし
こ御すましくなりしを
こ御すましとハ此君花散里なとニ大顕ヨ
らを紫の御かたにハ御はへりて
ととまりて思ひなりまいりたり

今の宰相にたえまなく思ひたる宰の君
をとりむけける
さ御前しまのひとつ中の宮
かなしうおもへとも中々にほかれ
弁 紫上乃語
私 是ハ紫の心中とみへたり
かくてきのふ思ひたまへん
世の中を親して何めくし貪着をして
なをあさ思

あり人しさしひて

例のとり名をとり人のさとに西と出すと

立てくさくさしひしさされ給ひもとれく

ちめぐらしまして

けみとも人のとりはかるひさるを西と

うまていつりまとしかるやのかりはかいは

ゆかしかはまのあるこ

とのはとるまとの行日

年の時の事まて定て出くるくるあ

ほ

ほうまとの事はうちとる

はいふとも四月ある時はあるはとるとそ

はまて人を命をまとす

海て出て命の塩をせてあはうた

りの所へとも

風うちふきたはの事のをとる

秘

除字の時ふと

先とも未一所とちの事のさ海之ひとりへ

[illegible]

秘 [illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 [illegible]

[illegible]

女三の宮さまの

[illegible]

明石の宮にて弾琴

私なり川辺

[illegible]

河 [illegible]

秘 [illegible]

[illegible]

河 子城陸處猶殘雪衛戟聲前主有塵

唐樓明月高

[illegible]

秘

天王寺の城は北方にて山を
方八丁の間にて西向
辛
子城は殆の心なり一郭の深八丈城を
作るに土をうばと間にうつる
ひさうかるもの
重れと久しうかりし
松浦殿の城は北方に
八幡の久しうかりしも
そうれをして

秘

浦をよろしく
こよりひさうかる

秘

浦の間にそうねをとり
ちうきこれをかの
紫みはうしんのぞうの
紫人の物語
さうハはみもの
東のいさ
久しうせそうれハ

かのよのうちや又紫の上に語らむとありてくるしけに

もとよりおもひはきたりけるに思[illegible]源

氏紫をとふこころてのよう[illegible]や

めれかり給ひし人の和をかりくして

紫の[illegible]行之

かきり有さへ人とはよゆ[illegible]まてかくりうかふ[illegible]源

く給へらるか

秘

女三宮ハ朱雀院ハ天下第一之帝王とも紫上に

このもとニハ及ひなきも

弄

女三宮かくをかしくて[illegible]之

思けうれ給ふきこともとりみきこえし給て

紫のらうたけぬ様を源のみえ[illegible]く源氏

紫をとう給ひし又紫よりも女ニ[illegible]

元ん後(ゴ)ニハ

秘

女三乃宮氏給ふ之

けさの雪に

秘 源さねとものあそん朝臣

ゆきあやまりの

高の峯にはちらこそひて年をへぬ

さきこそえさせ給へり

秘 みるはあらて朝ぬ色ぬ

めのもの色ぬ

とあり事なれ

秘 源の第一

きえとりひとえにうつりあるこそ

ひはくけり

源のうしてうせ給へとかとの

ふるあるうきと流乃ぬ也ぬ

ぬさみと

第上之 紫のとりの屋にあ人ぬ

とくうりあ

けさハまいの屋にみ

秘 青ゆふ屋

[illegible]

[illegible]

秘 人々と花しのぶ[illegible]

[illegible]

女三宮を花しのぶ[illegible]

[illegible]

秘 雪の[illegible]

[illegible]

源中 [illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

やうてみいる

女三宮の[illegible]

此河ともし実これハ老ひのよなかり

花ときかり

松

又をつけ給しもの語をきかまほし　弁

さとまり雪の花のれ乃遠ふ人々からち波かふ宮も

河

帰りそめて友まつ雪ハむかしのおもかけ白髪の名もり

私云是ハ白髪を雪に比して以下ふ正しからぬ細

て消ぬ事なりしてまたともなつかしゆきさハ

白髪ぞともやなお此寿も只河の雪の雨

花

待みハ待体とぞ

袖にしてまわく

河

たり給ハ袖にかさし梅花わかやてけふもことぞ

松

紫をとりて弁乃心ふかくせて一をとりかちは

弁

寿れ心よりかせて花をとりてまた

松

待つかりまちて移る毎

菊はやそてみゆるしてあり時にましてわれりきた

やそて人々ふつきの心あまて移つるかれ人の

女のかり花み世にかりてまた

女三八人をとそてまりまりハ是ぞ候也をかの事

花といへるかくれ

松 梅を評して云

さてはかりにてハみちりそりしかくれかうや

河 梅りかと梅の色にて柳枝よさせて

花 紫上をハ梅ふたなとまつりちり浮ハ

さ梅さと梅の色ハ世の色

松 花の流一塔うるはしくあるへ

浮ていろうて面白きはよをつくり

ハ紫上の梅梅とうるへきとて

とを いひまさりのうつりや

弁 梅ふうつてハ梅さと梅の色ハ

こまてはまさにうつろあるかたとゆうあるの気

はうりあるつくりやをの浮り

花 紫上の色をあきこはりのあれ風

まやあん花のさうりみるへてんやハ女

宮をなりひとせのうへ

弁 玉の花ともさうのかて梅さうり花と梅

ふうあと云なのさうりに梅梅とうるへてみ

やまと絵に対して紫上と源氏の御方との
四とうてまきらの小屏風の絵の様子を
ものがたりとうとうとうとうの義ハ当しおきたるころ
あとハ衆花未開の時ふ物の咲ら事をこゝろ
りとも花やかにてまさ花ハ盛りなるこ
意なりとうとうさんとてさ海の事と
のなりとの義なりの義なるなり
清てのりあり

松 女三宮の海の幼稚なるを紫上ハ
なるこ

清てのいとまを紫上ハ
紫上の海
なるこてうとの宮ハ海ハ
花ハ海の東ふとうとうみくらの物なるこ
こゝ人ふるこ　松　年齢
清てけみいとまを

帯り将千の色ころきさと好り八源の色ミ八紫の
ころもあにけみそう也けれ八あとこれとこ物語也
さころりのやとに成ぬ
哥
母宮の年比なと云紫と心
ろあ源ふかまきらりして
紫上の思さま之
とふのなをかへ八　哥　源の御
いとおしくて
秘
とふのくとかへしやふはやく白との御心

き物をとそや
私とふのなうハされて物まもとハ思ひ
てかしやう色ゆれいと哀くてとも
所をくとひなし源との宮ま情ハ女三
の宮ハすハかくししとハ紫まなく源
源か色なれとよするいと哀くあれて御実
こき人もなるしりうやみ何事とも源の
紫之いひなしまするあへし
けるき宮の御れをんとりり御よ

三東まてハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

年産し　辛　男し　こさせ

年産流し男し　しくはらさかてはみさせ

りもとうしてはつさきうかさはハ（ナさられ　みなもと）

みもてうくはりうれ

松　（まとヤウ）　ちれし　河流　雷　辛

河　毎人老らうれと　ねなうとこはあ沙羅羽

ふもと女こうとハちこはひはきしひあ色

てちもあり　ほさかし　ねくうれ　ふもうり

そしはひまきうとはひれてみていれ

ぬこうふ沙つうみこうこ

ほこうの年産乃別て沙羅をしこはう

ふ羅ふハ不審ふううの源乃色

ふ羅し沙羅うとハ

うらはもふもくのさ海をいうて

えみうふず

河　笑こ

松　笑うらうこ

ほうの心ふもうこはは

秘

若年の時善悪をえらはずあらく
源氏まさきの時の紙まきの
ハ（ハ）
私今ハ源の年ハ世わすれとなり
ものふかはあさいハ
なりひさりうらうを
きさいハ
花
ものハ
ものかなしかりけり
ものの
源氏の物みめこゝろとをとゝのひ
川わたりきさらぎ
しあるくゝ
（ハ）
ものゝ
今ハ
ひやうハいゝ
さうびゝ
秘
世上ハ
一東のものゝ
世の上とゝのいり

きふ殿

院のみとし五月のころ清涼殿にてうちひろひぬ

院ハ年産せられ給ふ時御帳よりハ西ひさしにてうち

秘 月のころハ二月中比仁和寺に迎ひ奉る

この花みあくまでなり清涼殿にて

山院ハ源氏

いたくさくやうにてうち侍りて

秘 ちりぬるこのさくらをいとをしみ侍りて

ちりかくしてしとね

おさなきをとこ

おさなきの清涼殿

ちりさくれば清涼殿にて山吹のうちにてこそあり

河 紫上

おさなきさくら人の

秘 院の女房の御前

きつの御前にもいとやあんとて

女 女三宮と紫上とをもてなしたてまつる

秘 ちりぬるかの人はてハ山吹の清涼殿

無禁上乃帝ゆくすえ

或部卿宮

薄雲女院

源氏宮　女三宮の母

先帝

[illegible]

可

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘

おのせに心あらハさるそけ乳をのひたる
女のさうぞく

舞

袈裟うしさぬるもの

年産の時侍人の様に
時てふといとそてふれを
紫の手海すれるもの
院内所にして

年産の時うしてあ三のいとけるて
ゆさ海ぬ心ありうくしくしとあるもの

いかしてあ帯ふ衣ふら

年産の時年ふりろひ子みるもの有様
あるもうの年ふ年ふ

門侍のうしの名

臘月東へ

ここさいの文

年産の時母弘徽殿の名所

二条の文あて

舞

四方后文のおりの中一所合

可

西行の文に俗二条院

隠岐に流されたる時

いつかまた月をもみてはしなんと

なさてはいかにかはせんと

年経ぬるかなしさかな

あはれなりけるなと

隠岐にて年経ぬいきあらんかぎりは

古郷のたく　源通

なの世にも

過ぬるかなの事と

くみ侍世のなかなみ

源頼朝卿

いとおしけなりし世のさまを

松

源平のうちひの事

せいしきもこゝろをくらして

又のゆきをうしなひ事のなかなで

しなを思しらせ物はなかひそるなと

せいの中納言の君

松

むすこ源乃介[illegible]

かの人の世[illegible]りみのさきぬる

中納言の兄　和泉前司

人はてなくてものらに

見[illegible]源の和泉前司みかへひ[illegible]

むすこ[illegible]源さ[illegible]心を

臘乃介二重[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

あ[illegible]

松

源[illegible]乃事[illegible]

きに人はりさ[illegible]

源の和泉前司[illegible]人[illegible]

事[illegible]

乃[illegible]

何

[illegible]

川寺[illegible]

[illegible]寺

円省[illegible]疾

いかなりしかりし

松　江撰後の大石内蔵助殿

[illegible]

年蓬の作者

何　[illegible]

[illegible]

何　和泉守殿

松　和泉守殿

和泉守殿[illegible]

元禄

[illegible]

常陸乃守殿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女房[illegible]

紫上之事つむの事ぬをこうぬう
のうひるすを
ひんこの流
二条院の東院之
心けさうしそまいいさしも
東院のへそはやとれくさなれにね
ゆは門はうひらけあつを
おりひあうせうを
紫の御ゆ鶴の事とひをうまの事
姫君の事はうちハ
女三宮おハして後ハうゆみ生流
うちうけ心あうを
うの日ハをん鶴て
女三宮の侍うをを
侍をみうさかく
女三宮侍をうりかよう御をを
又鶴をかよう御をを扇ををして
あうを車の中に紫上やはををうみ

幸

[illegible]

[illegible]

[illegible]

私苦乃思ひのうさの所為

[illegible]

松

朧月夜ノ尼

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

和泉ちのそらへ[illegible]

[illegible]

松

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

朧乃さ海

[illegible]

松

須の浦の朧月夜ちとちとしさ海 幸

松ふされいらと前の紅葉かな
世みさへ公りしの浦ひ　あとをかうさ
てをとをしてまうる人ふ重れ　ま
見えうれ見えしり
脱乃浦ヶはひ三重ヶ丸　年村
みさうドのさうふくめ子ま
障子とうそくあをて人乃ことの花かて
さうけうとしふ仏ものうえ
いうまやうるか

枕
原の網
うさきけの風流ものうの新れ
玉屋うの遊ことうの
枕
玉屋乃池玉屋ふ行ふ
春ヶ池乃玉ものあ
さうの面白し　年
うけりりせうれて
二重乃おまの業記の時と
年仲ものるう行て

辛 河 岡云仲ノ字濁りてゝむと一和合矣

辛仲 宣文 如みとに世こゝろ行ゝ第飯

て硯のうちに水を入ゝもちて用とめゝして

あるまねをもちゝとゝり 生来摘記巻

辛 そゝ忘れなゝすゝとゝり

まゝのゝるゝとゝ宮ゝ乱みあゝすゝとゝり 図

むゝみゝとゝてゝもゝれゝゝゝ

源ノ口みゝていはゝもゝるゝゝの歌ゝ岩ハ

ゝゝあゝゝ

さゝ流ゝてやゝひゝこゝゝこゝゝ

巳 澤ゝを川あゝんとゝすゝ白

源 辛月ゝゝ中ゝ人ゝゝゝあゝゝさゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

松 山澤ゝをあゝ飯ゝゝ世ゝゝ流ゝゝ八流也は

也脱 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

河 ゝ人のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

松 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

長月のありあけの月の明ゆくの事なれ
ばとてつゝやるなり

朧の心うさをなぐさめと浮きたる
ものなれば心ぐるしきなり

幸

うきたちてかゝる心はなぐさめ
心つよかるべきせ

明ぬるけのこゝろもとめぬ空の
時雨乃ぬれとをとめ

花ゝゝみふりすてゝ

彰子

春のよしきひ

花のえんのもとみはべりて

この蔭ゆいたるあるべき

秘

朧月夜の心

幸

朧月夜みまくての心

さいたるはのゝ影やうるさしあひ

明ぬるに酒のひかりはさらなり

さうくさまてしてそうみてそうつ
中納言殿の母ぬ脇月東ハ源乃人まそほ
てしあくうくさうあとそ
御文はしめて源りあてきつてふくるれ源す
しあくうくしと
元 脇月東ハ西乃方かとみ源行乃宮ハ
ふるう藏まてしくうれ
故宮乃　大后の宮へ弁
よくうぬ世乃さうくさにくうくしくきこれうとそ

大后乃源へあくうてそのうちひ春みて
そくしぬ〳〵み脇の色后さへうちそひうそ源
元ちうの公
のこうあくせまかくしくさ
な 中納言殿の源へ脇乃公中と安源うそ
あくしけくあくりぬくに
秘 物りをいくりを
源
ちうくしくそ物ぬとうとそ海乃月まけつへさやれ源
源 こうりを海うみてそれうハ三月十人かくあぬ世くし
さくさそとぬうさうあくうれハまとうへくしくそそ
之

[illegible]

幸

[illegible]

秋

[illegible]

[illegible]

中納言定[illegible]

[illegible]

秋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふしやはかなくれなゐ
のみしをりこよあり
源の脇へ別て公うの所へ
松
弟子の地
いろくさひしり
松
源の作さ海
脇ものりうつるけの事
女さきさうりう舞
中ハたうさ推量しほつる
中ハ乃脇へ源のあひりれ物言
みちうちほつうんと
紫のまきぬ
おうしまもけみ
河
高うしんとおりし公乃うさひみうしの
おそうふしき
夏川寺
よりすつき
松
中ハへかりの
うちうち花て

秘

何

秘

秘

秘

りらつうふと

女三の宮の姫君のまへなる御

一條宮の姫君おまへにおはせぬ

ようりきまそあたりひとに源の宰相

きりつぼの御ぞうは

宰相　あしたの中将　十二才

松　明石姫君　十三才

めつらしきさまの

松　御簾姫君　宰

ぞうして

れいしやをとりうるはそふと

花ちる里のおりまする

松　女三の宮の御ぞうす　西対

花　西対のひんろう　西

あしたの御ぞう

松　賓客のつきのうた

ゐいろく　　紫上

姫宮のしゐのとあるとて

秘　女三宮のしゐ　紫上

辛　紫上

うらみきこえて　　秘　源氏

宮よりのあり　乃夫れ

秘　紫上　　源氏

くやしきを　　とハ　宮よりとの

ゐいろ　ゆ人

秘　源氏　宮　下　紫上

とげいきて

秘　宮より

ちうこ　きこえて

紫の　女三　対面の事

ゆ　て　て　ひ　く

女三を　抱　て　源氏

心　ハ　い　き　人　な　り

紫乃　ハ　女三　源氏　宮

[illegible]

松　女三の宮をまゐ[illegible]

人々いとはしたなくひて

秘　源の宰相の中将[illegible]

[illegible]

[illegible]

山対面のまゝ[illegible]

[illegible]

松　源の宰相[illegible]

[illegible]

[illegible]

私 僕のやうなものさへ
とりあつかふ
中に今までは
我ばかり上人の
おもひ出をかたみ
とのみ

元 紫上のうへのまうさせたまふ事とのたまへ
紫上八幡の女御殿御物忌とはかりとおもひ
給へしかど

私 さ様にて絶る人の流れ
身はかたのうつりかはるを海士
秘 女郎の嫁取は絶あさましくなりはてぬ
身 紫上の女御殿御物忌とのたまへるを
〳〵しらるるとおもひ
私 女郎の嫁取の流れ絶にはを
野合ト云ふ法秘の流絶
ものはかなくなりぬるもおもはずくしさ
私 悪者其吟
院のうへ
源氏 法華
女こあり中宮御乳母
秘 女房相撲の女房
上れいらるるひとみ

あるへきかたより音しきこう

色ふかき紫の花を手向草とは　源氏物語

うしおもひすてし

ふるものはしらとしすぎとみて

はて

はてて隔へしワサトメカズヨキ手トニヤ

分めちらく桜やさきあんらるまに高砂の山さくらひなり

我身の人は物ふはひ知るらんあとはれの宴に

てハ何さかりを花ふ惜しらしかり高山さ

色ろやさてさ顔なるへしみ吉野の山ハ

私家の桐よりはゆるとしおすいさ

ちのしかくるしとこあるさふしひ

ふるさすさみ物ふる音とみさう高砂

山く若狭ニアリ色ハ出る山の名所

めいてめるひて

原の清ものとふる雪はみくう白なるとこ

原

ふるとは高砂ハ高とかりあと物ふ雪ハ

白雪ハうりあり雪ハ高ハ高砂の山ハ

高砂童家物と高ハ入若狭也名木ハ清浦物

みハ法奥四武又尾張州ニ高四り位光ハ及ぬ
く表りあり毒毒ノ心とゝゝ光法福光ハ
えてうり表弁し書ん

秘

法乃秘ゝ五文字面白し一文心ハ及うゝ和か
是ハ此ハ名ハ名ハ為ハうゝ為まを表くふ法乃
んゝ不変うゝ之義の下葉ハ法ゝ乃ハ名ハうか
ゝゝの名ハ池ゝ法ゝ乃ゝ和ゝ光ゝ和ゝ
乗ゝ名あ汗ゝ法ゝ乃ゝ秘ゝ法ゝ乃ゝ和ゝ
法氏の乃ハかりゝ和ゝ法ゝ乃ゝ法ゝ氏ゝ

ゝに法ゝ
法ゝ乃ゝ法ゝ氏ゝ法ゝ乃ゝ法ゝ氏ゝ
あゝしかり法ゝ法ゝ
法乃心
こゝひハゝゝゝ

秘

法ゝて法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ
かゝの法ゝ法ゝ

秘

朧月夜ゝ
いゝ法ゝ法ゝ法ゝ

秘

法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ
ひゝ人ゝの法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ
法ゝ乃ゝ法ゝ法ゝ

何

玉宮の母女房の使ひ、二条院玉鬘殿に

伺ひて行りもて玉鬘の母君

花

宮乃姫君玉鬘の女房なるべし何海に母

女房と云ふ所きこえひあやまりぶらや

秘

明石の姫君の女房なれど

玉鬘殿に女房なれ

玉ふ所ゝ玉ふ所ゝ三人ばかりなるべし

秘

あるべきよりは

けれども八重

いとゝ聞けり

ぬるべ姫君の海

秘

紫上乃ばかりなるべしと思ひ給へ侍る

いとゝ聞けり

秘

女三乃さ海

ちりの侍る

秘

ばかりなるべし

中納言のもれ

秘

女三宮乃ばかりなるべ

おぼしめ

第八段　伊勢物語ノ中

昔男ありけり京にすまでは人の子なれども
女三宮ノ母藤原氏光孝皇女　堂上ノ姫君ナレバ

私化ノ物ニ不載此段堂上ノ人ニテ世ノ
ツネノ宮仕ヘシテ世ニツヨミ侍ラ
昔男ありけり

世こゝろみんとて

昔男はなにはの事はしらねどもかりそめ
かしこゝにて

あづまのくにに行けるに

みちとほきに行けるに

昔男ありけり

秘　業平流浪ノ作ル所ニ也

女三の御事ヲハ堂ヲ造リ作ル

いとかなしけなりしに

秘　第十一ノ段

辛

朱雀院の御時に伊勢の御

ていとしのうしなひけるを人々

紫のさゝをとゝこの御ひまに

世中のうしあいのうらすめり世中なる

枕 ちり 姫姫の心はうらすめり世中なる

おもしろきてしみやびたる

女こゝろおりて世の御ものをすゝめ

こゝろ人の推量しそれに御の意切なるまさ

ゐなかみうれをしてみやびたる人のひとり

推量ふちをひて第りし女こゝの御とをゝ

のみちりみる事とゝも

とゝをりて

世間みさゝ乃事いひしとけり村雨後ハ

事ふちりとゝ

弁 枕 月よふいのゝ院の御ものさゝのみたりて

枕 御のゝて御堂之 御ものの事あり

松風琴みゝり 源氏ゝて

延喜十三年十月十四日 是日於西方賜

尚侍藤原朝臣四十寧賀

李部王記云延長四年九月廿八日京極

御息所奉仕法皇六十賀

やくらけ[illegible]

延長五年二月廿五日淳正尹親王為民部

卿六十賀於桃園宮設法會奉造薬師佛

像奉写薬師金剛壽命般若心経

延長七年九月十七日左大臣諸息四人共

於法性寺設五十賀斉會其儀本堂毗盧

遮那像前安置銀薬師如来像

天暦三年三月十五日右兵衛督師氏卿

為大相國公息信公七十賀於法性寺尊勝堂

修法會七佛薬師像写金字壽命経七

十巻 已上李部王記

ぢちのこころ

さいはひ[illegible]

悦賀

仏

最勝王経十巻題目金光明最勝王経金剛
般若一巻題目金剛般若波羅経　壽命経一巻題目仏説一切如来金剛壽命陀羅尼経

いとゆぐけき
寛心　ゆきえにひろらを
ぶぐうのさ
さがの仏をや
かたへいさをひろまりり
極楽をなぐうこてあしわへ来南無阿
とや弟子地

ぶどぐ申ぐうまをしり
仏浦源心南しの源心仏ぐうなあみすを
廿二百を仏ぐうぐのの日ぐうまて
辛賀乃月　廿二百仏ぐうあるこ二月廿二百
松　ゆ日ぐうみ四ぐ乃年あうき
ぐうこ年満ぐうぐうこ二月廿ぐうみ仏ぐうぐう
源の仏ぐうにぐうして四あうぐうぐうへ見誕
生日ぐうしなうぐうを
ほ　うみのゆとい仏ぐう成二十九ぐうこ一流三九年乃

[illegible]
二乃院はかくてさうれい
秘 六条院にて御祈は滅して後は三条院にて
[illegible]
辛 同云あいの人院のはかなくれそまて業
作仏供養しかは院はうくすきぬるつひ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

辛 [illegible]
院はかくてつひにこのひさいくい二条院
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
秘 花萎星をやや
あいも人人の御つ[illegible]
秘 [illegible]

院司

同 六条院の院司

えだのくらのすけ

元 義平七年十二月十七日院成院清賀心殿西

放出第三間立螺鈿倚子　今案紫上

賀二条院より

私立陽明院ハ二条院之初めはし給へ

同 同立倚子　ひとつ

一部義秀ニ先例ありの世ゆり人ゆりき事

主上上皇ハ不審之

とゝのゆ

元 義平七年十二月十七日陽成院諸親王源

氏為大政大臣清賀西方一間立清衣机八

前　以院御　置清服筥八合有黒紫後　覆

清涼記院清賀事延喜十六年儲平敷

座〻〻机立脚納夏衣清衣立脚積雜事

各五十匹

永享四年二月廿六日於常寧殿有中宮
御賀帳臺東邊立尺御厨子六基 衣筥十二
合一基夏御衣五
具々五具

うちのかい

松 ちはやふるかみのみてぐら
うちのかいなや

心葉みなかみとしら
をさ物のてえみりの乃罪のとをこのとを

河 置物机 唐羅の生濃覆
うきのゆいはぐんのうきの

河 流花足之

松 おかしあるを老をとをとをとを倒ゆるかみり

花 喜祥三年仁明天皇四十御賀御抽頭臺造
沉香山似金爲鶴令合御抽頭花
をげいとの御頭りの

松 桐臺

あをのかうを

幸 うけもりてうきのゆいとをせを
うちのかいびぬ ぬををを八幡宮乃矢

[illegible]

[illegible]

河 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

何 天人参着座

万歳楽 拍子二十 新楽中曲長秋宮横笛

譜云本是舞七拍而今世舞五拍舞也

入用調子 陪膳帝作

花 延喜六年十一月十日御賀先参万歳乗

次 蘭合香 次皇鹿章

こまのうらうらてらくらくうらひいらくらう

何 落蹲 南宮譜云昔善舞此曲者伴田麿吉

楽 小曲

楽中納言在当 拍子

夕霧 拍子

いりあやとやのうらうらひらく

何 舞 有取後手 拍子 入波 舞入也

入あや舞のうらうらたち也

舞 同云中納言当拍しらうらと舞うらう

舞人かくてまいさう 一和合矣

いあ一色乃舞庭院乃月乃舞

紅葉賀乃何の事

又ぞうこと

久寿御はしまの源氏殿仕の右衛門督よりつかはさるる

はるかに信ハやとりとりえんて

松

いまの世ハ源ハ中将殿仕官ハ中納言

ぞとハ二人なりなハいとものすきみやうとこそ

源氏之

ほうしの院

小乃もとのぐこう

河

今河執政の室家を政所とも号とも号ハ已院

号以後之仕り本執政の河氏政所別当と

今ハ中ハ沈中乃儀とぬるまひ給ひ

てとあるくくそを通ふる院号の後

おとゝとりけひを仕給ふ小くをに

りハ人さるるもや変なとやはりて

ちけ給ふすとんてうり給ふ小政所号

なり執所かうり見

花

紫上氏家司世房とハ世方又政所とも人

よりもて心ひとうり給ふ院ハ人氏家

乃世ふうり政所といふ人行ふ乃人や

紫上と申奴所にて以前家司なりし侍
わかむらさきと源ハ今流浪とうり姫とかさし
ゐまりきと源の御遊の名をなつけて有歟

北方のくらひ之紫上なり（〇図別面に下
のゐるかをや一部別面ハ家司と云之又図云紫上
女房と号すると一説概家扶図十位〇て
ハ正室をハの改てハ以姫の儀式に成る事
山ちこと山乃て
こて乃御遊源の系統の名しるり為位二系

院の御山のてくらし

ちゝ世をとゝのてあるよ露の毛衣

河

むかし乃田乃〇〇いづぬさ川やとむ源の
いにしへさ川あやとむ露に　二位　とむ源氏
ちとせをとゝのてあるよ露の毛衣
あをひあつる　二位　あをひあつるよ世をとゝ
てゝ

幸

庫田

庫田

庫田

ゐとくりて

秘　玉葉うちやりてかりの名をしたる所望

之桐壺の帝は代をさびたる

故入道の宮　秘　為世

世をしてうくれる

秘　為世

門あり故宮の

門ハ　冷泉　故宮ハ為世

この院のはしとと　源氏

きいのあしはのうさはれうこそり

因　天子と文ハ朝覲として行幸あり源氏

さるる事ハ

くはるとや仍為なみうこはきてりなあ

うとはるとや

世中はてはひらうる事

何　吾君不遊有深意一人出多不容易六宮

従号百司備八十一車千万騎朝有宴飲暮

有賜中人之産　白氏文集　驪宮高

いうひとりの事

約束の事と源の辞退しまゐらせ
たまふ日あるべき中文まゐらせられて
中文八　秘妙
源の清盛をしまゐらせ
清記云延喜十六年十二月廿一日中務卿
親王奉為清筆賀奉写寿命経始於
仁和寺設法會
私云密厳寺西方の清盛宮
十月十八日遷しまゐらせ給ふ

故あり日と秘密のせつ是なり
故あり日ありそし十二月廿三日
ひ日あり
ちの物
当年中の物
寺の京七大寺
こ乃ちさ文この写
奉作六條院清
寺部王記云延長四年十二月十九日内裏
奉作六條院清六十賀調経平城七大寺

四寺寺百例
回云遊き都西
十寺れ寺の百例
定ゆるゝや
一勅大嘗祭のゝ
ゝ大ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ

合布六千端進京七寺絹六百匹則於生産
獄賑給初欲依例奉仕清賀無自粉院
有清息停止如故是而已耳
清記延長四年十二月十九日壬寅此日奉為
太上皇息災増宝寿於京邊七今寺南京
七大寺東大興福元興大安薬師西大法隆清誦経事真布施
用絹六百匹布六千端〻〻
奥觀十年遣使於邊京四十人〻寺平城四
十人寺依轉経功徳銭寺別有数賀皇大石安

等也
延長二年天子四十等布四千端十三大寺〻
諷誦〻〻〻

事

秘

源氏の御所とさせ給へ

二報のと御はからひなり一念さとまはれ

御為ゆゑてはさとりをえ給へ

又

義経の二報とは源と報ずるなり

そもそも深さ事み報へ乃志とをえ給

私云はく西口しし

私云秘義なへ一事ノ義いて

うらあれうらみ

秘

何事をし有暗をえきやと源はかをえ給

事をそめをえ

平氏ごりが

平氏かをとり事はさるへきとをふものり

のうをひえ一さ事をうをえをりまうと

仁明天皇平御賀所一崩天暦四十二崩東

三條院所崩右大将定国延喜六年行四十

賀同年七月薨見等し事し

昭宣公ハ貞観十七年平乃朕し御年七ヵ

し薨ゼ貞信公ハ延喜十九年平朕御年七

十歳も薨ゼをる例しあまたをうをて

たゝりをなさんとはをもうや

弁 はるかゝとうを失させ給ひ仁治天暦元年

祭 祭り猛崩侍り

源の公ハ命にしたがひ給ひ

故うりうをひすさめ給ふ又命をさ例あれ

先多くふるまつきてうのうりおもんてうり

ものちゝみうんまを

河 五十九祭の事

おくやをさゝはまて礼いろとしく

祭 公事ゝ事ゝ

中臣乃侍祭ハ内裏ゝ礼ゝ事ゝ

ゝくいてり

文礼おりまするもち

祭 六条院のしつ宮ゝ

辛 秋好の方ゝ

花 中臣乃おりまする時ハ神のゝ式を祈祷せ

ゝ也て六条院へ侍りゝ参ゝ侍ゝ

ゝきくにゝゝにゝりまする

[illegible]の[illegible]の時の[illegible]

[illegible]

[illegible]

はあるさうこ右大わかの方もりの清かた堂上の
清姫ゆりハ緑乃さくらハ多ゆ
辛
同云河海ゆ大饗とハ中文乃宴れ多ゆ
ゆくふたさ中文乃文二文の右宴れハ紅紫分
ふくるふ幸て　一宴中文春文乃右宴れハ二文乃
大饗れといひてゆ毎年正月二日ゆ右乃ゆ殿門
乃東乃板ゆて中文乃宴れ有り日乃西ゆて
中文乃宴あり　さ幸とゆ法にひれらせ
さ〜ぎ

腸羌　延絹　寒ふう腸ゆ幸ゆ故
清さうぞくうさうぞくせ
ゆハ源のゆ文乃清さうぞくせ
ゆくさ清ゆひ　石苔
河
高名録云　韓将　落花形　蓋無生角せ
鵜形　雲形　鶴通天　鷺通天
故有坊乃　秘中文の文文
ゆくさ世乃一乃物
秘
私云くのくせうり

もて知らしめ知らんせそらぶるとこそ

秘　第子の地之

秘　問何事とひとてもうやー部義弓大概之

ふせり七大寺ハ伊勢神宮お功徳後

と施入せられ又延長年六条院の代ハ年萩

乃獄もて賑給乃事あり今ハ行ハ事とそひ地

ちりみゝり河海のせられる史記孟子ハ今以

事にハおくの事こうて用し

何　孝経口明君し政設利以数し又口愛利俱

行衆乃悦　史記口竟乃賜并絺衣与琴

為葉倉廩弟牛羊　五帝本紀　以下略し

内ちはせりちあてて

秘　主上ハ行幸もらるる事とれ心のかにお

行めしあり事こ

中納言ハれ　秘こうけ　ハけさもと

秘　月さ一ハつ　とむるーく　ハ　ハ

ハ也ハ夕雲ハ　ゆたりうく

弁　源氏舞一ちあて夕雲に作作を　ハ

行幸なりて行さまゝ図

うつの時右ちゆうやもひとしてまゝ見ひまうと

松 京図ゆたのし幸

河 大納言安倍安仁　天安二年二十七依病辞右大将 特同三四年十三薨 延喜十九八十三依病上表 十月廿八日卒後

大納言藤原道明

この中納言ゆ

松 大なの関ありてゆ霧とあるよ

流とうらゝ

いちやさ

家強ゆ

ゆ又家平ゆ

私清貞のゆ

ゆ清貞とゆ霧ゆ作ゆ

あさを

うゝうゝ

松 乱ちる里ゆ清

元 清貞ハ久寿元年

ゆ町の

家強ゆうゆ

ゆ

ゆ

[illegible]

秘 内々伺ひの趣[illegible]

[illegible]

内裏[illegible]

[illegible]

[illegible]人[illegible]

[illegible]中[illegible]

秘 [illegible]人方[illegible]

新[illegible]式云藏人頭奉[illegible]先書出[illegible]

度等用途物品内藏寮穀倉院

天皇拳賀上皇[illegible]等[illegible]也中宮[illegible]

[illegible]

私中[illegible]

[illegible]

さたのおと

辛 [illegible]

公卿正員太政大臣左右大臣各一人大納言

二人中納言三人参議八人合十六人

見寛平遺誡

殿上人ハ四五人院ノ殿上人去文

花

殿上人ハ禁中ニ[illegible]院の殿上人[illegible]

の殿上人をもて[illegible]

殿すう事あり[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘

花[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘

四[illegible]

私ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

何

宿徳

波佐方のうら海にてこゝハ宿徳

内乃浦てゝ世話つる

辛 主上宸筆ハ清之 近国出立幸之給之祝之宴ヲ同

枕 宸筆ハ[illegible]

私云とてゝ志のうら海とあるハ宸筆ハ幸ヲ

しあさりしてうらとてうらとたゝハ

すぐみとし河海みあり

何

紙屏風と唐綾ハとてうらとうら或ハうらと

云ハいうすぐゝ

彩儀或云毋屋ゝうる副小澤子ハ彦和れ手海

屏風三位清忠卿ハ寛元三月屏風一帖清忠卿書ハ

延喜七年三月廿八日太后れ紀云とゝ乃ハ

と寛平乃中ハ清忠ハ[illegible]屏風二

うひ清てとゝ[illegible]せてたてまつらせ

給遣集石ハ定玉平乃ハ[illegible]屏風

洞ゝてゝ[illegible]

うあやのすさん

年月のをりそこ

玄扶乃作り志ゑもこの清屏風をみつきれや

さはやもとよりすこひ心ひさしくそこうんかりり

私云餅乃年月みはりわさ玄扶の繪をもと

ふしこの清屏風みるとの初をしらせる

仏上つきよいうくくくくと以る初まやめ何

とき初りみばしひさしわさ物

何

清涼殿置物清厨子置板　孝道記

第一階　無置物　第二階　右笙箏　左琵琶　拍子　玉葉集

第三階　笙　第四階　和琴　打物　八南北

先賜敷　大笛横笛　次太鼓　次鉦鼓　拍笛拍子

清涼殿の置物清厨子置板

つきくくもひさしくの書かれたるなり

松

上より御清涼殿の図花鳥にみたり

公

延喜二年正月廿九日宮内卿宇多院御奉表草紙

内裏院に出物清涼殿四十疋　八自日華門磯人　左右馬寮

給し　内豎奉上宣旨馬以上　大臣退出時し　沙石馬寮

大臣以下乙瓦伏西西伏

と云事延喜の内侍所の御宴の時は院の御まへの殿上人
せられて院の御まへの殿上人にはかはりて殿
内裏にて八近衛にはかはりて殿上人にはかはりて
乃殿上人をもつて是式部の丞は四裏の
ひかせ給ふ事なり左右の方の殿上人をもつ
殿上人をもつて是延喜十六年三月廿五日
十陪馬十疋四裏ゆりひろく時は定之時は
事にのりてうまひかるへし
河
六衛府（ロウ）　左右近衛府　左右衛門府　左右兵衛府

延喜十六年三月七日陪賀日記曰左右
少将諸衛佐馬助等門御馬十疋奉
覧
延長二年正月廿五日同陪記云左大
臣起座院陪馬被奉入作令早奉入代
称唯下殿作之即方陪馬廿疋有日
華門時雨一冠
弁
同云陪馬とは六宮院内の御馬
儀を為六衛府とは六位子ともむを蔵人

のせ行り

万歳楽賀王恩子といふ

何 賀王恩 太食調曲拍子十六可渾五五合拍子八十新楽南宮譜云右楽中曲舞出入用調子

延喜六年舞 日十六年侍従賀茂王恩 万歳

楽あらゆ侍従みてうり

はか舞うしれうもとれうもて

うしはとそりいはて侍従よたりぬ

舞ゝ仕れ遊をそうりうて舞ゆき

うりのうしみうり

松 はかにしあもうしまれ侍りうり

とあもてうもうしうし

賀 王恩ハ三ノ恩う賀ゝ之ゝ（コヽフト）ゝ

うしうしくうりもて

松 舞を器ゝ侍従乃山をおぬうせ

びくハもいの当ゝ笑

舞 蓋うあ

賀ゝ王恩乃侍ゝ

源氏ハ琴をひさうを

おうぎ

扇仕方　和琴之部

うゑ方おうひよい仕ふ仕ようと

源氏と扇仕ていさるれぬ同名之

ゆとりあるみさをれうまえひつあ仕ようえ

くてゑ之のくこ一まひかけんとてのさ

うりをあをられて仕事みとひくくてまつ

何うゝ乃ゆハ

唐まち

異書ハ西湯王大鈎字伝傳寄七歳高祖重

し賜王義之書一表

延喜十六年仕ゆ賀之時内乃ゆ出物ハ

ゆ手琴一裏琴和琴各一面一枚さ

又延長ゆ乃ゆ横笛琴箏和琴各一面一物

右有之袋笛著松枝日ゆ出物之ハ

大石日記長平ゆ年十二月九日ゆ

とり物流の名一まひつまうゆ乃

ゆて乃万葉集しひつよいなまさやぎし一さ

松

ゑのさゝ丸ゆ

琴琵琶ノ女ノ手書ノ名ヘ

延長二年十二月廿一日中宮奉仕円裏御
賀吏部王記寛朝元大僧正一西大史自
中宮御方被楽器等於又南富御座蹲大臣
第一被北邊大臣清和御書 元清和七合也 兼和九時琴琵琶献
筝春鶯囀 付木松 次八條中納言被琵琶 次琴
筝和琴弐部 卿親王同じ大臣奏四位宮奉
貞大臣譜以次称名
承平四年三月九日奉仕中宮御賀 貞信公記 不
及禄退出追給禄 并手跡 和琴等木萬葉集

八巻二合 今案延長二年ハ承平ハ中
家ハ貞信公ハ中宮ハ穏子ハ醍醐天皇ハ
ハ中宮院
ハ延喜ハ倒ハ
承平ハ中家ハ貞信公 二時摂政 ハ
ハ摂政ハ人
禄ハ
中宮ハ禄ハ和琴ハ万葉集ハ
ハ后ハ御日記ハ
ハ

作るうたむとうて左のつさうて海くりてたのしふ

延長二年正月廿五日作賀れ紀作馬引出

し後主殿寮拒雅楽寮入月日華月華西門

東西相互来明門前時間三献也逆奏舞

曲唐高麗各二曲　夕霧右馬

寮の作盛之

同作馬を出とハ禄とかつけ物右馬つき

る麗乃てとハ　右の五人代まと一和出之

そは四ちとひ物を出そふ二式うけ物事

コウトムケニシム

之の友人代ろ

大ねちと活ろや

四長宮一院

弟　一院ハ　弟雅之

松　一院ハ弟雅之い作出て海とろふ松の弟之

さきいのうや

秋好中宮之

ちねのくひちり

源乃男子ハ夕霧ちゝ御ハ葵ゆ
ゑ[illegible]おさ[illegible]
信濃ゟ之人くゝ
めゝ[illegible]いせの文をんなの
秋ぬ中文夕霧ふさいをひゝ[illegible]
いゝ[illegible]乃ゆ[illegible]
葵ゟ[illegible]六条院ゟ[illegible]
秋[illegible]
第
師ゟ[illegible]事あ[illegible]

おゝ[illegible]ゟ今
くなりて[illegible]
[illegible]乃日の[illegible]
秘
花散里ゟ
三条乃小[illegible]
[illegible]井乃[illegible]
こゝ[illegible]
秘
花散里ゟ夕霧ゟ[illegible]
今日の事ハ[illegible]

弁　花ちるさとの春の雨

松　源平一騎こ

ゑ　源氏平一乃うちてしかの

こゝろ法かの清こゝろ

清盛ちりさらぬ

はるしきおとゝ武みなれてしかの

海くしきこゝ琴上れ春こ花弁

まぐいとあえうなるう

四石姫君十四歳こ花

ちをとゝ

一　栄花物語上東門院ゆ中ちゆ

松　くさせま

物乃弁の故こ

あるゝ清もちの中れいみ

弁　物乃ゆいこ

松　四石上れ侍ゆまちこ

私弁こ物乃たいとゝ不審

こゝに八幡宮ありて
小野もりのていこの門み寝仏八幡十村とり
いとなみし
くゝ者こゝの時み
枢 おゝ乃上也
うれ大あまこゝみも
一枢 ぬる上乃毋こ
なけ人まて
年のうまとこゝろ向こ

こゝ乃内ありさはを
三歳に後八くゝ姫君こゝまり記
むゝ乃年ふゝまかみこゝ
明石上八姫君ハ昔かゝりそゝ乃のまに
ゝ行ねハくゝ里行ゝ
あゝしくむゝこさ人ゝ
ぬる姫君の御ゝ大尼ゝこゝ君ゝこゝ
むまれ行し
姫君ゝあゝ生て誕生の年

八月ばかりの頃

源清海京乃守の石山に詣でんとて
そこ思ひ〳〵に姫君をもてなさんとて
おくすりしたる
うたあるまじきものうり
秘 姫君の御心ばせうら
心乃うちみは
これし姫君に御心
うけくりて

雅好子の現運り 張梅の名よハ行と
生上の御子たるゆえ思ひそめ
身をハなるさ物り
くりくとしぬかるは我みるゆえ
ことひしりとこ中文の御心寄ゆく
世乃人ハ
私事ゆくのこと
いとあるまわ君れる
秘 第子地之

私母をハ[illegible]
の地ゟ[illegible]
かゝ入道
あゝの入道
仙人
センニン　秘　辛かゝ
ひみ[illegible]
[illegible]
[illegible]

秘
[illegible]
日中（ニツチウ）の[illegible]
秘
[illegible]
あふみ[illegible]
あゝの[illegible]河
みゝ[illegible]
ちいさき
[illegible]
秘
[illegible]

公

やうり義奏みをとをの作り是
みをのうちはさきはしりやうり
由
うめさせして
河
取なし
手をうきうれしうれしうれし

いてまうてまつんとや

図 年ぶやと色とさうより花ハ去りて

やをみてらむ色

いとけしきあうしく

明石水者のさ色

まうみとおくなすす

一 ぬるとのなみとうしろくれとうしけさ色

色つくりと

春ふ年をハ清月れ侍宮ヲ上ハ

ひしおとやや

ちつきなとハみなしくもうりくまと

一 盛のとさてハ白のひろるこ

ひろうし

嚬 又潟ゆ時ハ眉の間のあるなとなを

ものいとこと心を人明ゆ子ゆ

ハひをまるあふ仏ゆハ潟ノ子の心

あふかくいとと

秘 さうりうつる色

私はこの間みそそ[illegible]
ひそそいはれ[illegible]

尼公
老乃流ひあらうに[illegible]
秘
さまに人しうも[illegible]
仮
心あらいに

昔乃世みそ[illegible]
一
白雪を四老乃文見 文選こより
さの石ぶち
さかさまに[illegible]
姫君の[illegible]

[illegible]
私[illegible]
[illegible]

明石
世と[illegible]
弁
あ[illegible]
秘
人[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

松

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一松

[illegible]

阿闍梨中宮令上上后東宮母六條流御女
母八條道播磨守女

皇太后宮徽子
醍醐天皇御母内大臣高藤女
母文野大領弘益女

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

御産富貴千年嘉白裳束九夜汝白裳束後尋常七條石衣帯
記日　女房等召著白裳唐衣　冷泉院降誕

[illegible]

一　[illegible]

[illegible]

河　祝母君

[illegible]

[illegible]

[illegible]

何
新市場後日時に
後七月毎日午し
讀書 [illegible] 鳴経以
下午しかれ仰事
し氏母大和奉仕ゆ湯
負依此女能知此
道也故子中和言
室花根朔
卜女
奉仕れ対湯

清湯大夫前湯

松しも〳〵湯くゑ湯の事こ同〳〵と人拾〳〵
如湯あゝせ事ゆ湯のあひ事さこ〳〵り
ゆむ〳〵ゆハ明石上こ
うちくれ事ゆ事ゆの事りなるに

秘 ゆ石乃姫君ゆ母と見てしゆをうゑ湯こ
ちきわ事ゆ事〳〵湯を人〳〵ゆこゝゆ
明石こと宣旨の事のみて子ゆ

秘 ゆゆ子ゆ〳〵き第子地こ

こ百しゆ事ゆ事ゆ湯ゆ
六條院ゆ石姫君をみゆ事こ
七日の夜内〳〵ゆ湯〳〵ゆ事ゆ
内ハ主上 冷泉こ 春宮の湯多ゆ湯ゆ
事ゆ ゆ茶或〳〵〳〵人坂赤角ゆ迎
れハ六日ゆ午後〳〵ゆ事ゆ事ゆ
花 延長元年七月廿日朱雀院ゆ湯
う如ゆ石ひ内裏〳〵ゆ廿日内年六月一日村上
院ゆ延ゆ七夜の湯〳〵ゆ内裏〳〵

基子〳〵錢後ゆ
基子〳〵用ゆ事山境
こ歌〳〵故こ祝こ夕
ハ心〳〵こ

何

新後式云皇后有
御産事先遣中
使祈奉同じ七
夜御内藏寮令
設供膳有勅祓
或穀倉院設也
倉也
女房更衣参
七夜遣使得物

せ給ふ所の例と申あはせ侍るの小巻之内
根の筍ゝ五盤のやうにおとゝゝしうきこゆ
ひかるゝ御帯布衣ゝ浅葱袴武士者ゝ色
あり美の人ゝかハ女房装束いとゝ人かたて
色とゝのへられ侍ゝ御あ一ゝ人ゝ
祝ゝしうて

年産院のゝせをとゝてゝ世のつゝりゝや義人
ゝ五日

年産院ゝゝゝゝゝ人ゝ事ゝゝ侍ゝ

て延喜元年藤原門院誕生の時又みとゝ侍
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ之天ゝ侍ゝゝゝゝゝ
ゝ日ゝゝ年産院侍ゝゝゝゝゝゝゝゝ
同云義人ゝ一和歌弁ゝ歌ゝとゝけ
ゝ侍ゝゝゝ義人ゝ侍ゝ

ゝゝけ事ゝハゝゝゝゝ

松
中宮ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ元年ハゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

源の侍従物とかたらひ給ふ事有りけるの後の
みえうりの事とて世の人あはれと有聞しる
もの哀とおもひ合しのこゑのうちの後
きまハりたるすてりしうるとも
うち交とかたらひ給ふ事ハ世をさまり過て
河 源氏流罪の後ゆるされ給ふ
一 ましてこゝ数の内の人
ちかのあまくまうけ給ふ世の人
秘 上たちの内ハ大ぜうの事 弁
物とひさのうるやうに
ひとのあるやうに世をうること
みくらのもうけグりのあ
秘 あるの上とかたらひ
とてうりこまひくこと
秘 第七ぬかたゝや弁
文乃内ゝに
秘 心乃あるこてもとハあこゝや
おもうぶり

三歳にて色と月ぬしの五年とされる
おすすめやうこの中に絵をかゝれ
侍りける　　ばせを
法ゆりそくりの
まさくりの額に
ちる文文のちるに
一年　明石の中文をえんすめる
日　誕生の文を　明石雅文　侍りける
私まれる文の事なりて姓名はまく

中文ちる稿ハ高しハ戸角くすれ文ちる文
しいくえい
かりあるもの
入道前橋にちる
あこめこのり
何をこゝろの月
うの月ひまる
明石の道山ぬるの侍りこ
そひくるる世のちめ

秘

獲麟乃一句こ

はこゝにあり

秘　光りをとの羽年

ゆれいを海りて

光はみる人目ひまへを

会佛（ゑブツ）しけぶいとりやにやゝうて

一　光ゆくんかみくゝ叶道の会佛　懈怠とな

めゝやくうゝハ之益こ

六時のはらめ

入道のおこるハ心こ

明石上こ

むもしはくこゝとゝ

人ゝやうゝすみの山ハ右のひにけりやま

乃右（ナウ）より月日の光ゑにさゝ出ゝせとゝ

みはゝハ山のそれ

山をハいろさ海ようこ

てみゝ乃ふ沈さゝて

秘　もゝ乃山　源氏ゝ物語　去因果経を

妙之玉道乃ひろさ広さ右の氏明石上とは
りけるを女かれハ右之月日其夜月ハ明石り
姫君ハ今の君を乳母ハ山乃そて入給ハ
せるみなをさ阪ハ恩えみあ〳〵さるかせ山をハ
ひろさ海みて海と宰に入給ひ春夏秋て
海をそなたちう〳〵（さと）ちいさき船ハ乃ぼて船
若の母代掉さしてし船岸よりう（きと）花乃
ハ笑を可能寺伝云義寺を造計
私ハ分寺号日仏別こふ侍し

拾遺記云帝伯て常夢春日則生子
帝皇年代暦云吾懐帝時前趙刘聡字
玄明張氏夢ノ日入懐十五月生聰
日月夢ノ事
推古天皇元年癸丑正月ニ法興寺立四月小厩
戸豊聡耳天皇と立て為皇太子万機悉委
外博奉ヲ始て四天王寺と建立三年甲寅宝塔
無漏〳〵てらと類造ル六月十五日夜雷響
頂上宝冠と著し拾乃玉四の仏形光り

大宝蓮花乃上にあり[illegible]て左右に
日月輪と見えて光明とくあたりを黄金白
銀乃七宝の城郭あり光明城のた
まを列ねたりく海上にいでゝ奥深し春の
神祭かゝてもつゝしゝこれ為さまを清行
衆半ば上宮太子とおもうてゆりて山りゝと清門
法たゝ大ゝ女殿る器て月漢の神光音楽と
あてて七十宝の円七十郭を題宝一一に射上
ゆ寄ゆりゝ見懐中抄

華花池法華二位新撰ゆ[illegible]
ゆひて来て[illegible]
て移て約[illegible]
為をとして[illegible]
鉾為去為[illegible]
大後云九条[illegible]
北を東西の方[illegible]
裏をいさたりとみを作り[illegible]
為よりゆ[illegible]

くわうせ[illegible]
[illegible]
[illegible]

過現因果經云至善克佛乃無[illegible]出興于世
今時善惠仙人因于五百外道論議邪其
異見時五百人求為弟子各以銀錢一枚
上之善惠聞佛出興今燈照王迎請供養
擊鼓唱令國內名花皆不得買惠以輸王善惠
聞已大懊惱欲訪花所忽遇瞿夷持花七莖長

王制令藏著瓶中善惠至誠感花踊上追呼
就置此女合言當送內宮欲以上佛不可得
也善惠告言五百銀雇五莖花瞿夷問
曰欲花何用善惠答言欲以獻佛瞿夷又
問獻佛何為善惠答言為欲內就一切種智慶
脫衆生瞿夷答言今此男子乃今志誠不惜錢
寶即語之曰我今當以此花相與願我生生常
為君妻善惠答言我作梵行求佛為道不
得相許生死之緣瞿夷即言我不從我願花

不可得善惠人曰汝若定不与我花當從汝
願我好布施不違人意若使有求從我求之
頭目髓腦及与妻子汝莫生疑壞吾施心罪
夷答言敬從來命今我女弱不能得前佛
寄二花以獻於佛使我生々不失此願好醜
不離必置心中令佛知之時灯照王領諸官屬
持妙香花種々供具出城迎佛王臣礼敬散獻
名花々悉隨地善惠見諸人衆供養畢已請
觀如来相好之容敬滿種知度衆生故即散

五花皆住空中化成花臺復散二華亦住於
空尒時王氏龍天八部見此奇特歎未曾有
於是善光如来讃曰善哉汝以是行過阿僧
祇劫當得成佛號曰釋迦牟尼既授記已佛
往行處而地湧善惠即脫所著鹿皮以
用布地解髮覆已佛踐而度復記曰汝後
得佛當於五濁惡世度諸天人不以為難必
如我也是時善惠投佛出家白言世尊我昨得
此五種奇夢一者夢卧大海二者夢枕須弥

三者夢諸衆生入我身内四者夢手執日立
者夢手執月唯願世尊為我解脫菩提
曰夢卧海者女在生死大海之中夢枕須弥者
出於生死夢諸衆生入身内者為彼作帰依
處夢執日者智光普照夢執月者清涼度
生令離熱惱此夢因縁是汝將来成佛之相
善男子不勝踊躍（大業經 辞字函）と薬内典外典と
夢とをとけるかまことにしてこれ法華の
所説の善惡他人乃六根清淨とをもふ此三

三昧とをもふ此三昧は梵語なり華厳蓮華山虚空八
万由旬なりて仏ましまして妙法を説
地獄八寸八万由旬地獄を出る寸八万中旬合十
六万由旬乃山なり八谷なりて東西南
北四方に別に四月八山乃半腹とをもふて畫夜
てらしてをもふ所の人道天人明右上此五
とをもふ東の夏こそ月とりくに光をあらせい
りて須弥乃山八山なりとをさて八上なる山を右なり

こゝにハ母とハ右につゞきたれハぬかとゝいふ月
山乃たゝりハ月日乃さゝ出るハ八月中宮日
ハ年月ゝ乃ゝ乃ゝれハ明石乃浦ハ年月ゝ乃ゝ
浦に年月とゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
遊世とのまこと年月とゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
みゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
掌に握りゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

とゝてりハ八道般若の玉に握さて生死の
海をゝゝわて西方極楽の岸にいたるゝゝゝゝ
現富二世乃孔子成佛して成佛之善
惠仙人の為に須弥日月をみせる年ハ善之御
一ゝゝ乃ゝとゝあくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
以ゝゝゝ若其ハ法ゝひりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
世出世の利益ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
又玄奘三蔵ハ後てゝ前乃須弥乃海に入るゝ
ゝゝゝ恩徳乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

必貴ことをもとめて菩提心を発すべし

いとまを得ざる菩薩ありて法を流

多くは求めけつきの願ありて四衆の心を動かす中

に菩薩と信ずべきまことに知りがたし

如法乃修とは善男子菩薩摩訶薩

修行今世は如法乃修行みひきかせたまふ

ぐ乃ぐとは文

信出外無ふ

又四衆乃四と

光八円典として仰法乃義なり

周礼六義中有正義無風而夜無憂喜雁

之時分明為正義

又説栗枳王十義あり義法師義

凡師論ハ義と信ずべき事なり計

御土祖師善導和尚ハ義とりて記せり

律宗のなおなりハ義をもとせり

又仏性集師云摩耶夫人右脇ハ

又法華経飯王右義乃法羅門と云ふ

若母人等見白象入右脇抱母所生界無極等之
夢為[illegible]
[illegible]
[illegible]

みちのくに十万億の国をへたる
阿 從是西方過十萬億佛土有世界名為極樂 阿弥陀経
むこうふくにそ
此界一人念佛名西方使有一蓮生但使一
生常不退此花還到此間迎 法照禪師五會法事讃
ものくるさきに山のすそに
河 義墨し漢書曰如竹之ひかり
光 滅の伊代わい玄賓と僧都ものがたりけり 反陸
を樹にそうして寺を泳して流水をのぞみ 法華経

ひかり
光はいのくるまをさけさ数世八十もとき
ひかり
光をんはつき迎如かりいれみ世界をうりと
秘 長文乃世代たちのへき事を以り入道
乃園もとのみ世むてかりあわ毎おを横
とかりをかとと 弁
月日くるる
秘 文乃日分を命日とそひうへの名あり
弁 世代文のよう命日とうへ
いみ毎もりへのうを文人とをうのちの衣 阿 禮衣

明石入道ハ棄恩入道の名あれども子恩思ふ
あまたたんなりいかゝ色々と人のなまるる者長
みてやはるまさやと道を引ぬ捨られ
浄飯王の金鼓をうちならすひ目連入無門の南
無ととなへけ給ハ明石上ハ身をあらてハいなてか
子の恩を捨ん事とこそ思へ共ハ仮名と変化
ひ給ひしなせしなと河海ハ宇治拾遺
といふこそ云され事と人界ハ初初の時
化生なるハ有りとうたれしの変化といふ御

芸藤の教方式ハ宮方にうとく善悪の業を
感てうりあてのうちと取とる事ハ変易生死
といふ事歟和尚ハ法勅ハ変化集山拾遺文殊
善賢といふ事ハ明石入道の変化物といふか
なりしたふ説きやう人とて次ぎ
変化ハ何
変化　やはり化生ハ
私ハ命ハ生るあとにかれる義ハ
神ひ給ふ事

秘

安養寺

きしのなりのうへにいたりて

何

娑婆世界のなかに

到彼岸彼法羅蜜

善導大師の讃み給へる到彼岸安養 安還來

織田度人天の名

うたがひなみ

信者の社

孰(クレモ)

ともに

松岡出雲の乃うち

うのなごたうえ

・沈文翁 何 封義

きさき二月十四日

よ(ヒラミナ)十四日しいなを奉さまつり 作り家こ

松田近代はみなてるをはりていまるを

いるをハジフニ三千ニジフニ三千ト三ト云近年

字と忘て十四日シニフヨカ廿四日シニフヨカ

ト云ト云ニ仏法ハジフニ三千ニジフニ三千後千

越後

[illegible]

河

薄墨王子飢虎

於

身をすて山みの[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四月上旬に南北朝ハ明石の中納言
をくしく
秘 あ〜の上
おわりけるてハ
おわりけるの事なるてハ
明石あよ宮ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

辛
おわりけるの事なるてハ
の命ありさふらひおわりけるあ
けみ世さと

・ 尼宮のふしけるのうちにけるてけれ
世ゝをとりハ
約束ハなくばゆ
けるハひら心まて我方をとけ
年月我方をわ
ゝ
私道ハ

去年て帝都京の時ふるてを明石とそ和
くしは浦八ひろ海をなるとをりとこ物ハ
山家みそのかくそうけての事なりとせも
まてくあひの重ハ物ゝ[illegible]ハるとなり
りさゝとこ[illegible]
あまよ寿久しくくそあらひ
浦のこゝろをこゝろくしてかな
実の清ゝ[illegible]
明石上をさして
[illegible]
各留半里素花臺 兵衛 待我同浮同行人
[illegible]
秘 源乃清書
[illegible]
都と物りとて[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

辛 [illegible]

入道[illegible]

[illegible]

清[illegible]

辛 明石上より

[illegible]

辛 明石上同り[illegible]

[illegible]

秘 [illegible]

[illegible]

秘 又[illegible]

[illegible]

秘 明石[illegible]

辛 中[illegible]

[illegible]

明石上[illegible]

とそ
くさひまあいとはすふ
元 尼公の四位をひろまる
私花ろ義いく姫君はあはりさ
白と み若女はさまの八さやれはあいよ
くまをもんみまりせあり 若女
まれうをとをひろまとをあり
ありりをれうり
松 南の白とまりまる ゆうとれまる

ゆ宮ハ四ておりまます
松 尼をみの間
生まれ白ふる若女の事
女房の方
松 姫君 白とは徒白と若女れ事
中白れを
院さまのは并て
松 源と尼宮の事と言まとの話しまと
話しまとの

弁　花をみかりくるあるゆへ
いたはるとまかり
花をといやしみてるうんとおもすいさまを
屋をあるはてハ姫君中まにまり云ふれ
御伽ゆつさうひはひの若ふ春ふあ
ちるよつさまを
みうちゆていやまれいそさ
松　屋ふ
ちゐしかくなみたしの

弁　姫の中ハ
いてやはまてしを
きさきみいひ月ふ明ふ上ゆ
みをふ八道ゆあすして別まを
なていつるをうけいわ屋ノ羽
おのかぐこハ
松　八道ハ方ふをて文和ふ
文ふりうまりまを
松　春宮ふを　姫君ふ

[illegible]

春文門院

[illegible]

秘

明石姫君こうしてまもなく皇子をうみたてまつりたまふ御産のさわぎ大かたならず

誕生の後七日目とかいとり

女院とりあつかせたまふ

同じ月ついたちさせたまふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]上

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あしさはしるまとし

八道ノ海の半をを

伊勢文

なこ乳をとうもろこしふめり

私乳ぶこ八乳を思ひ乳(ちち)とハ云ふ

こりうちのこ

・乳文のせうの乳をとうこうとも

うこうりうみてをうをハ

姫君し成人あり つ里に我身せをとそむくて

ゆやうとせ

ゆ乃ようとせ

・あしの上ハ乃ようるめ

たいりうの上ハ伊乃

紫上乃事と云

身みはこよるくもうりて

松

あしの上ハ我身をハうりて紫上と子

秋百歳と四ツ

寿

我みをうりてわかふ

[illegible]

姫君の御方へ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]人ハ姫君の侍ら[illegible]

松 [illegible]

中のみさうじ

いまそのおほ中れ[illegible]あけてとの[illegible]

[illegible]

松 みりうの[illegible]ハ[illegible]

・ [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

人をりるすきあてみぬめしぬさえちきり
人やまなすすらくるふり
ろろしくかくくそそまりまし
これくさみわりてこれて
秘 紫上こゝろうしまさきせて
いとうしてそひくまおさ
秘 あくの上網
人の行ゑろるとうあぬ
女はやくしまうんまて

姫君はをとうしまあるえとう
なくせはくるをせはりんを事ろ迷
いうんやわのこみこそおりませハとさ海
くしはしろさるうこさまをいはるて
ふまいくせはしていりを名とくれるえと
色えてうまくこさ
紫(藤)ゆくしくハせしと海ぬ花をを
さうしらかり
見ハ人ろ光ひらをあひて(重)

秘　源

秘　我身ハ山人と海人とにまかせてこんからちきこゆ（さかりまれ）

源ノ河

秘　我身ハ山人と海人とにまかせてこんからちきこゆ（さかりまれ）

源ノ河

秘　へくてくと八源を海さかりあるとこ

明石上ハ一日一夜と源をいひ海こ

てきたりたりあるせ

秘　まりハ山ゆ海ゆ

（えらばれてハ物くさくてこそ思ひ侍れ　まいハくとひとりれ山ゆ海ゆ　とさかしらくさくきき事とかた　これはあるべきのことにまし）

秘　まりハ山ゆ海ゆ

源乃河之明石上ハ山ゆ海ゆをいひお

こゆ海ゆをいひおこゆ海ゆとハ源氏ゆ海ゆ

そのゆ海ゆをいひ

私前りゆ海ゆ海ゆ海ゆ海ゆとけり

ゆ海ゆ海ゆ海ゆ海ゆ海ゆて

明石上ハ

秘　文第

秘　源の河

ありつるこ

ゆ海ゆこゆ

あれうゆ海ゆ

秘

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いまくさてさわ紙に
けふあるきをうしきき 抄源に
いふをこかひもして
色もと入道の体をと紙をうまと源の抄道
ちらのうちにもかつてこうふうん
明入道乃尊をかはてうまうんにすくれし
ふ義に飛を滅ぼしたこはうに飛きえん
をすまのしるこの石入道尊はをはしよ
て飛澤乃消滅し事分ようしとせ

ものしさくうく乃人
抄
貴僧高僧としてあまくみはらあ利生
乃し澤て玉葉入道玉い明入道乃人
おりしもて
きすに事さあり
抄
世乃義しらしさるみてあり
ひしきそちこ乃世くるまこうかし
世俗玉貴の在心乃人
やとれ方乃ハ

松

七二段 村雨あり

いまハ乃作 布

明石上尼 年

高の高きさまを

父

ふるさと山乃滝之川年あり 松年七月廿

河内

とうの奥しまの奥山ハ松ゝさ四と人ハ言

松

源氏

作ハ世乃中いと

あまを言いて

年 源氏乃物ゝ

ゝろ〻ゝ物とゝけと

作者 文婦乃中

ゝゝなゝゝゝゝ

源氏 海

ゝゝ山年ゝ人の

世の中ゝまひと言ゝと思ゝ人 通 年ハ

言ゝくゝゝゝ

ゝゝゝ人ゝゝゝ

ゝゝゝゝの

秘

一ーの事なるべーーー

二乃巻かりし

秘

明石上の事

光ゝとうりいとやうの

いとあやしきこといふもぬえ上問

花

梵字ハ天竺乃文字さ二の摩多辛安の形

文字といふ事あり事跡ハ弘法大

やうなりといふ

今ハたゝうれ物ーと物ーあまこの物

秘

都へのぼりたし時の事ハ此事ハ雲さ問

松ゆゑ上ハ京へのぼりて上ハこうりと思

ひゝ別もてゝゝ上ハこゝうれ物

とおうれのこゝとといふ

さゝゝゝゝゝふさ

ぬゝ上ハ

うりまひて

入道乃ゝさゝ上ハ

又箱ゝゝゝ

秘 幸先よろしくみすを海内とりあつ
てなし

ぞんじのほかなる二位殿上れいをせられ
この世をかくのごとく

秘 なを世の事いかりとのふ〻 幸

元 ふ乃ゆえなるべし

秘 明石の浦ハ大臣乃伝来

河海ゆ小野宮九条右大臣の事とひかり

うちもくだけて紫やけつるうちつ
きらかにうたひてそのよう異
河 忠文氏新々ゆ内と紙乃大ゆ事ゆりきろに勧
賞ゆ宣ゆるくきゆ対治に賞ゆ叙ゆ紙ゆと
かれとこゆあまとゆきろれゆきろと其ゆ右氣
ゆ刑乃叙ゆ紙ハ行ゆれ賞乃叙ゆきと
行ゆとゆあまとゆれゆ清ゆ海ゆ
ゆ豊羽ゆ氏ゆ右遠ゆゆとゆて畏て富
乃芳樹ゆきゆ家ゆ泊てゆ紙ゆゆて

立ちもとをるかう十れ扨乃ふ兵こうまて生いて
無ハ紅と云りうあ申ゆ一まて三郎きりやて無昊
とうれ申と云れ申や清信の子孫ハ未うあて
小野家ハ代家（仕りもりとと見而記者は事ら
入道乃ちやの事准拠ハ清信の事をこうりわ
門徒代の事れ事ハ人河海
とんのこれうれ様けうれと
秘
只は如清乃うりて明石姓ハれ事とあるうと
花ちるみハ女子の方うりまれ頃の事と同じ

而申ハ紅は如清れうそみか一ーとせ
村上院ハ一乃清子廣平教王ハ氏乃元方れ
山をもの立衣ハうれみ清才塔泉院に居
まてとうもしみうり井一乃みこと同さて
東家みそちうと（日或ハ兄とかいうれ事に
てこひ兄みせ一ーさ後塔泉院れ居りうか
ら世清ハ清文乃ち山院三条院とてゆ
ち山ハ織り清信をそれうもせうと
三条院ハ清貞人こうせ乃をけとせ乃人三条

院の御方に被為成候ハ後白河法皇御位
御ありて俄に院号をうけ給ひて小一條院
とさうもに御号ハ泉涌寺の御寺いまてこれ
をうけ給ハ後堀川の御方ハ後堀川
三条院の御方ハ後朱雀天皇ハ後冷泉
院の御代に門跡ありて後三条院ともうけ給ひ
ともうして後に湯の門院とさしまし
して今の世にてハ三条院ハ後清
ハ後冷泉院ハ後朱雀

年ハ如法寺殿ハ入道殿にて乙私のち
ひさしてあるべきにて候ハ
てをくるにて御寺ハ光ハ如法寺殿
ようとうの後の年をれ世のとりハ
とうの年をうしさとや
はべるらし
私秘しかくのこと書あつらし
この巻ものに
河内寺にうつし　秘　巻ものとまる

世中の万物不南只源氏物語とのみ優なる
関のたゝ水
あ[illegible]
枕
明石入道の事
よもれまてもさゝまきぬるもひ
源のもれもるかくはせもしきまとそ
なみさゝ
さの方もむもれ
幸
明石の女君事

源のせもしさゝるひとゝ
みまはは女君の生さるまてさて
ぬるさゝるはもひ
めのまゝ
もれもさの国
うゝ
源だのみありて
源氏事をもとして
うさゝよいて
枕
入道の物語にて源氏の任のまゝい

てきめうなりとも

弁 九位左衛門の事

こゝにひとりの

あり女房の事

むかしものがたり

松 昌俊はてうりの

源の四郎に有りけるやうにてこそ

ものしけれ

河 明石入道の孫にあたる源氏みなもとの

ちうしんとなりたるや

松 源を清和天皇の

孫にあたるいみじきものとて

松 源姓賜ふ教訓之事 仁徳天皇八入道親王

さしもあるべからず

あるべきの清和天皇と

松 第五の清和天皇をはじめ奉り

もとは皇子

松 皇孫兄弟なりとは及ぶまじ 弁

ゆこさ海乃人ゝ[illegible]ゆけ乃あり[illegible]

松　北道ゆ他人の心とゆ[illegible]ハ一段の

志ゆ海ゝとせ

ゆゝてゝ[illegible]ゆゝ[illegible]ゆゝ[illegible]

海内之[illegible]

なゝゆゝ[illegible]

ゆゝ[illegible]

辛　第上乃心とゆ

私ゝゝゝの人ゆゝ實母乃ゆ[illegible]

味器ゆゝ[illegible]ゆゝ[illegible]

心辛ゆゝ[illegible]

いゝゆ一の世乃ゆゝ[illegible]

な　ゆゝ母ゝ[illegible]

松　継母乃ゆゝ[illegible]

ゆゝ[illegible]

ゆゝゝゝ[illegible]

辛　継母の[illegible]

[illegible]

[illegible]

元

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

やハ四十三しやさ海の月拾あつ山ハ二の
まし乃ふ乃ふ乃ふ乃ふあの四ふかつ乃り
ふ乃ふ

松 それ〳〵に人のこゝいあつ
えうなうなりて

松 さりなれしなく人ゆ〳〵なつ
あの角いをのみ角

松 第上

又あつまひらけて 混(ヒラヘリ)

光 四や海ふの月をあつ山
よ りひろけるやの四ふ乃ふ
うえの人ハ四ひ角〳〵ふ

松 第上乃ふ乃人ハ四ひやりあつ
四ふ

辛 第上乃ふハ拾失海〳〵ふりつまこゆ
うこゆこてハ
四ふ上をそこの三り辛
むけひろけハ〳〵て

松　さてもいつひさしかるべき
あはうしろこ
　　なにはのうらにうみのまに
のくまなきなみ
松　明石上の御
元　をしはかりしのぶ
めさめぬさはのみなとの
辛　紫上はかなくなりたまひぬる
松　ものしきかなしさ
　　ちりつさ事ものまもなくきこゆ
　　ひとりてはまくしゆく
　　くくゆさやかに
　　れはるぬるかなすくれきこえ
元　さえぬはなるかなるかな
　　はみかさ海ものてかくさ
松　紫上の御事をみるにつけても
元　なにはのうらあはれなりしかな
松　明石上をはじめたまひそのほかの御事ども

[illegible]

秘　四位しのつかさとハちはやひさまかる
ハちはらうめしぬれとそひさまつ
なやとも四ひさまゆくとや

秘　あすけちうえんかをとあるぬ
ふちうきとや　弁

晃　されをはなとの[illegible]

私晃乃歌
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

秘　ちうさ人とも　弁
[illegible]
[illegible]

[illegible]

秘 明石の入道

たしなみ[illegible]

源の光[illegible]

[illegible]

秘 ゆかりの[illegible]

[illegible]

家の[illegible]

[illegible]

河貝

女三宮の母

女三の宮へ源の[illegible]

[illegible]

秘 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

図

秘

明石と名付し

明石と名付て世と共に

やんごとなきたに

女三の宮御腹に

きてこちらの一男つき

明石と名付後世にとゝ

なえこゝろ高山をみと

秘

入道の宮と申す

くらべたれ共おたがいにさてし

河

式部文

郭輪多羅ゝ福地の図小種まさてあり必有

為乃郭に　奥入公雄有此説此所證拠不知誰

説頗れ信用しがたし

秘　名

石こゝみのうちむしろの明石と申とい

郭輪ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　奥入級し伊勢御堂塩屋

住後鬼つれ信ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　

八月十五夜月見

[illegible]

松　夕霧女之文事をいつる事

[illegible]

女之文の清方之年産院[illegible]

[illegible]

女三宮清方ゟ霧れる

[illegible]

西山さの御ら[illegible]

[illegible]

[illegible]

松　みちのくに

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

私年ハ大略[illegible]

ひとりぐらしに世帯をもちの話

一偏ハ世間ハふきとせ　源乃心

[illegible]

[illegible]

世ハ三人ハ酒乃ひとりぐらせ

けふ[illegible]

院の清氣[illegible]

[illegible]の清らい

世ハとりいてさかなせ　松

[illegible]やうとてじて　妙

みしゐ[illegible]　辛

野ふのまさまてみせとうとんうひしき

月清かりしく

をそ[illegible]さ[illegible]ゆみいかりと

雲井の房之事

雲井の房をぬてい文こそ心もるさと源の

女之文をぬるとて四ゝ卿みさうしこ

私は能秘り書さてハ清水井房のナ

さの房のゆいとひわすれ[illegible]

くしさ[illegible]てハ[illegible]

ぬゆみをこ[illegible]

さゆくにつ[illegible]

さこうう事こ[illegible]

ぬゆ人ゆ四ひ[illegible]

は文ハ人の清[illegible]

女三ハ[illegible]

[illegible]

源乃別[illegible]

みこ[illegible]

秘

人[illegible]

松源清[illegible]

ある人やと久霧の立ちこめ一所ハ朝ぼらけ
特にあつられみるに行ゆくさきとて
いひいそぎもや

女院の御歌

院うつるはまり

はるを

院ゆきかさまりとハ

女こを拾ふ

うしみハ

拾ふ

秘 芹雀院

女こ

ふいかうの御けさいみハ

女乃者之結ふ

かつしけなくとさ

秘

拾ふのもれハ

そらひさきの月ゆ

秘

女こ文をたゆ

小行ちとの清ちゆ

秘

女こ宮のれめ

いひとけもしけ

拾ふのれものの月ゆ

[illegible]

秘　源氏乃隠兵乃志あるをんなに対して恋まと

尭　源氏乃清山こゝろとけ事

尋　源氏の第五子を法そ法ゝとゝまゝ云

六条院の道心の事

私事乃後ノ義秘同ノ

[illegible]

走りかゝるもの

秘　源の須ゝ事ゝもあさ月

おもやけゝゝゝ

まもりてあそらくて

河

劉向別録曰就鞠者傳云黄帝所作武曰起
戰國時託黄帝蹴踘之勢也以練武士知有
才也今軍士無事得使蹴有書廿五篇
元興寺本名法興寺大なり御門なり
うて天智天皇内大臣鎌足入鹿を誅
鞠ありけり
延長五年三月廿一日侍記曰晩以綾綺殿
前令侍臣蹴鞠覧之同五月八日仁壽殿就
鞠五月廿二日殿前十三日侍帝寧殿有蹴
鞠興

秘

鞠をとり
源の羽
久寿の羽

みさりのうしき年乃
まわりをそりや
こまれ給りし
えんのひろおりて
みつの合いの東面のまりのそりて物
童ハこまくみわりそくと入れる事也

秘

はかとりつのまりをそ

寛永の頃はさきに南禅寺にありしを
ちかくうつしてまつりや
秘
玉象（ぞう）一まつりうつるや 弁
今りのかたのかはりあらはれて
遠ちかくまつるべし
ちかあらんものをなを
只今法ちかくしらるべきなる面
射ノ東西より鞠ノ庭ありとかいて鞠の庭
とかゆる事ハ保元物語にもあり先ハ
ちかう又西ノ射ノ庭ありしとかいて
殿の東ハ映東ハ面へ出て蹴鞠ありと
えたり清ノ東ハ
出かいものの先ちう
乃弁 ちうノ弁 長清 清俊 ちまの弟
後仕のたちのたち 柏木代ちう 弁 光方
ふるをかしこさ日記ありとけりて 河内
とて 清俊
弁の先ちうたちなれハ

秘

年月ハ後或人ニ問れし事の侘なりしとハ雪
そゝぎはせさるなるへし
ゑちかりしも
御家元なれハ　自然源と悔て料砂と
ありてかくのごとし
かゝりのうちひそハ
源ノ朝臣義経ハ老後ゝ流鞠ハ料砂ある成道
つゝ事未満まて流捕ハ六十七ノ年上鞠
せ一ハ一旦の事ゝ

さゝいとぶくぐりや
花　軽々しきりの事ゝ
花ハ人ちりうきまれさそうしさそと
かあこうは特しうりしいりあ合てゝ
一和　花ちみ三ちすとくもりの花のみうしハ
さゝはさりうゝ
ゝちやうゝあまりやゝ
ゝ花乃内み鞠みんのひくゝみいりみ射す
ちりうりしさゝりけみ
萠黄　まゝ流保うまりけゝ

秘　花ハちり　高砂道

赤門結のうりあに

柏木より足とみゆ　柏木二

うちいてさらけるみは

みはつ乃まにあさけるさ

花　霞敵乃南山さみ消同あ

はつのうけみるとて

秘　沒すみ西へうふ

をとこ　秘　足

花　まりとをうへ

ちまて人みちとうまとうまみ

へ乃東北射乃西のとこ北かうなる

何　朝倉白高冠額　按

弁　さて鞠みろろさうなる

さくのるおしれやうに　秘　文貞

弁　表白裏萩芳

はつめさ乃をそつ

[illegible]

家の作りなりかりの

花鳥風月の物貴ものなりとて家の流れ

とし花は鞠とけかいにて社の流れとぞ

[illegible]

物貴ものなりなるべし

[illegible]

鞠りあるりて[illegible]なるべし

資雅卿は[illegible]の松とて[illegible]

花は花の枝と何ともわからぬや

資雅は[illegible]氏作[illegible]

有雅の[illegible]

鞠の濡[illegible]

みなもの中[illegible]

中陽 光例[illegible]

物はなさし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

麻

秘

川竹みな白くすす国吉川ちなり

ちりのみなくまハ

物ゝ御前ゝ

清水

秘　世三ゝ

長のゝむけのぬさ

河　手向奇礼　みそ祭　又事礼

ぬさ

後撰　ひ

拾遺云乃（まりもとのりゝぬさとしを

ひ袋ゝ

我し春のゝむけとハ三月の

高し

芳野と張ゝ

光

ぬさハ

ゝ紙とゝ

張ゝ

ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人げらく

私秘こゝろ[illegible]

かゝ[illegible]のゝ[illegible]

河野王童曰猫似虎而小能捕鼠乃根 音苗 和名抄古方

[illegible]

・川[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なりけるを

世間うしれみをのあさうとをもへ

みうりのうつる

世このうをへ

あいとうこいてうされと

夕霧しは神をとろけうを

うちうをかきうつる

夕霧れ野ナてくろひて袋うせうを

をはいうをうちみへ

夕霧へ今ちをはうをせうをとへとを

世このはかはうをはをはを

猫のつれをて篇れ川あきをしれうとかうり

網をうしをうをかはうを篇のうをうをへ

きをれかをうをやを

夕霧の袋りはうをうを袋に網と

世をををさうせて

猫をのいをへ

へをちのさ

酒の河ちかき馬場をかりて

さいれいをおこなはせて

秘　紫上ノ序方

な　女の射れ南のひさしのうへ紫上ノ方

ふれるうへ

大わ馬場

な　回廊也

ひさしいりかゝり　中ぬき

秘　ひさしいりかゝり鞠場まてすかぬ

何　椿餅俗の業ゆゑ餅と俗業と合て

りちゆれ粉、あまつとうけてけみう歟

鞠のゆゑて名れるそ　京四ツ目の上　倉の

ゆうくしひうこみうそ弁もらいを

まてまつ日俗つりたの紫いのあをいを

うしたち花あるもきさうとなり

辛　そなれ

秘　花　有なり

つちまれのうと

秋の夕霧

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘

物まなびとなる

鞠のもとにまゐりて八条殿にて

事はてぬれば

秘

為忠

うちかたらひて

ちかくしさうこのはやく侍る家の風

物の初実のひとしさうこ八文つゝ

久しく九月の物とて

いそぎ何事しに人まとうまちと八文一つゝ

秘

源乃頼之卿の事は侍るとしの白てもあるこさうこ

まゐりにきうこなること

源の内さうこをとて物すりとて

ちふ人みなひとしく

ちふ人みなびてしまりの物を一出

ちふ人みなびてしまりの物を一出

なこれ源乃頼之卿とうり

物すりとて物すりの事ハ

中乃事ハ

ちかちひとつ事ハ

夕霧物すり同事

秘　柏木ノ段

秘　柏の段

源の[illegible]

こゝろ[illegible]

秘　女三宮ノ段

[illegible]

秘　夕霧ノ段

[illegible]

いてさはらへ　退て

こゝろ[illegible]りて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

花　桜

[illegible]

秘

[illegible]

[illegible]

[illegible]

と云人の歌をよみて山けとなりて錦をな
きてうやこゝとうとひ花のもとにあらしの
こゝろしハ云こゝとハうやこと云ゝ
みゝ山まてのかゝてゆくこゝろ紙けハ人とゝ
あらのてゆきうくこゝろるしかゝ重ハけとゝ
花
ゝゝ高ゝ高ゝ高ハ高ハ野ハ第の花けさ
ハ西云ハゝゝ高ハ宣高しゝ不知しゝ
ゝ高ゝと云　常陸ゝゝ牡丹とゝゝ花ゝ
花ゝゝ時ゝゝゝ

今宵みゝ山まゝゝゝゝゝゝゝゝ
や浪山まハ里ゝゝゝゝゝ花のゝハ女三ゝ
ゝゝ

雅
ゝゝゝ一部花ゝゝゝゝゝゝゝゝの類ハ
ゝゝゝゝゝゝ花ゝゝゝゝゝ
はこゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ

秘
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

松　ぐりハ小行桜うりと云物花ちる流れて

一日風ふきてうれて

松　文ノ間

みるさくらとまけのつく

松　院中の庭の内をいとこうハ家よりあり

玄　玄ゆうみやうけ　西ゆけとみるさくら　玄　玄

り　節乃名所　如之乃清水　玄　玄

何　みるさくらハ名所ハ名所　行ゆ　れ　庭ふ　世　以

應德二年三月十六日　花宴

千代まてしられぬハ山ハ桜　みるさくら　ちるよ

いくいくふみをとり

物ふ乃枝と世之のくらひてとこ　春下

あやうくふ

何　みるもあるれみも世人の　ハあやうく

松　川辺之　なるすー

私伊勢物語の心ハ人をとなる　何　浦　世　歌

なふあやうくなる　人　行　ま

乃ふ　り　心ハ　こ　ら　人　道

[illegible]

[illegible]

心あらば　秘　[illegible]

侍従は一日の心ゝ[illegible]

秘　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

年元奥州仙人九方
南乃ゆくの西乃くにたち
むらさきわらび支給る野村
毋屋ゆるゆるへしと東北教生ゆるゆる村毋やど
弁雀院の姫文六重院へまゐり給
りうかまちの西ゆくふちいてゆ清水た
てくるゆくに八角いるくるて毋屋九つ
ゆるくしく女二条いくゝ殿いおります
とんゆ方